長崎県文化財調査報告書 第164集

長崎県埋蔵文化財調査年報９

〔平成12年度調査分〕

２００２

長 崎 県 教 育 委 員 会

栄町遺跡出土ライン炻器（18世紀代）

玖島城跡石垣内出土遺物（1610年前後の一括資料）

一野遺跡５号墳周溝出土　直口壺

直口壺　口縁部内面線刻拡大

一野遺跡３号墳周溝出土土器

はじめに

長崎県内には，国指定特別史跡「原の辻遺跡」をはじめ多くの遺跡・埋蔵文化財があります。これらは，私たちが遠い祖先から受け継いできた貴重な文化遺産であり，発掘調査によって得られた遺物や遺構は地域の大切な財産として後世に保存・継承するとともに，広く活用を図る必要があり，このことは私たち県民の重要な責務であります。

そのため，本県では，埋蔵文化財の発掘調査等を積極的に行うとともに，埋蔵文化財について県民のみなさまに関心を持っていただくため，九州北部三県姉妹遺跡交流事業や親子古代技術体験事業などに取り組んでいるところです。

本年報は，平成12年度に県が中心となり県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査と遺跡の保護・保存・活用のための諸事業の概要を紹介するものです。

今後とも，県民共有の財産である埋蔵文化財の保存・活用へ御理解をいただきますとともに，本書が広く活用されることを期待します。

平成14年3月

長崎県教育委員会教育長　　木　村　道　夫

例　　言

1.　本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成12年4月1日から平成13年3月31日までに実施した22箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2.　各遺跡の調査概要中の位置図は，国土地理院発行の地図を使用し，［　］内は図幅名を表す。
3.　本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
4.　平成7年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。
5.　各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。
6.　本書の編集は，県教育委員会学芸文化課文化財保護主事 荒井春房 が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 ……1

二　県の事業について ……3

三　調査の動向 ……9

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 ……15

五　平成7年度から平成12年度の発掘届等件数・県市町村別職員数の推移 ……18

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成12年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図……19

①浜遺跡　(有川町)…20
②長崎鼻遺跡　(宇久町)…21
③雷命神社下遺跡　(厳原町) 22･23
④水崎(仮宿)遺跡　(美津島町) 24･25
⑤金田城跡　(美津島町)…26
⑥家ノ隈遺跡　(豊玉町)…27
⑦玖島城跡　(大村市)…28
⑧諫早農業高校遺跡　(諫早市)…29
⑨小栗Ｃ地点遺跡　(諫早市)…30
⑩桑田遺跡　(瑞穂町)…31
⑪鍵峰城跡　(瑞穂町) 32･33
⑫多比良馬場遺跡　(国見町)…34
⑬東鷹野遺跡　(有明町)…35
⑭一野遺跡　(有明町) 36･37
⑮森岳城跡　(島原市) 38･39
⑯稗田原遺跡　(島原市) 40･41
⑰礫石原遺跡　(島原市)…42
⑱飯野遺跡　(布津町)…43
⑲木場原遺跡　(布津町)…44
⑳白崎遺跡　(西彼町)…45
㉑栄町遺跡　(長崎市) 46･47
㉒合戦場遺跡　(長崎市)…48

Ⅲ　平成12年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表……49

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

平成11年7月16日に公布された「地方分権一括法」により文化財保護法が改正され，平成12年4月1日から施行された。これによって，埋蔵文化財の保護のための事務は法令上基本的に教育委員会が行うことになり，それに対応して県規則・基準等の改正が行われ，6月7・8日に「開発部局担当者基礎講座」，平成12年9月8日に「長崎県市町村担当者会議」を開催して，手続き・文書様式の変更などの改正について研修・会議を実施し，地方分権への対応と取り組みを行った。

全国の平成12年度の埋蔵文化財の開発工事に伴う工事届（法57条の2・3）は29,890件で，11年度の29,454件に比較してごくわずか上昇しているが，長崎県では平成8年度から落ち込み，平成9年度から上昇してきた平成11年度の165件から平成10年度の水準に近い143件に下降している。

文書別では法57条の2が71件，法57条の3が72件で半数であり，指導事項別では事前調査60件，工事立会35件，慎重工事47件となっている。また，この他に数件の無届工事があって厳重注意等の指導対応がなされており，遺跡の周知徹底と開発部局を対象とした文化財保護法の手続き等の研修を繰り返して実施していかなければならないことを示している。

工事に伴う事前の発掘調査（法58条の2）は，全国では平成8年度11,738件がピークから下降していたが，平成11年度の6,772件から平成12年度は7,958件に上昇している。しかし，長崎県では平成11年度106件に一端上昇したが，平成12年度85件に落ち込み，工事届と同様に落ち込んでいる。

法57条による発掘調査13件と法58条の2の発掘調査85件と合計した98件の内訳は，範囲確認調査52件，本発掘調査46件となり，開発区分では平成11年度に比較すると道路・住宅・個人住宅等で減少がみられる。発掘届件数は，工事届件数とともに落ち込み，全国の平均した傾向とは異なった傾向を示した。

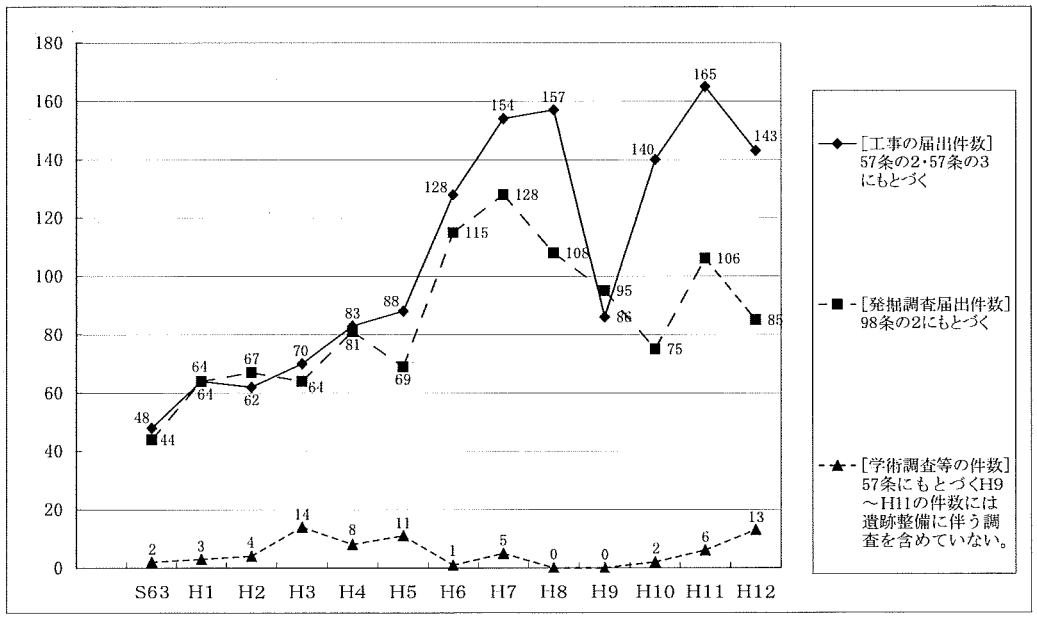
県内の埋蔵文化財専門職員については，県文化課では17名（内嘱託7名），原の辻遺跡調査事務所6名の計23名となっており，平成11年度に比較すると一般国道34号線拡幅工事などの開発事業に伴って嘱託調査員が増加している。また，県内の市町村では，8市21町に42名（内嘱託6名）が配置されている。地方分権が促進し，市町村合併が推進されるなかで，今後適正な職員配置が課題となろう。

区　分	件　数
道　路	8
河　川	1
港　湾	1
ダ　ム	3
学　校	1
住　宅	3
個人住宅	3
工　場	3
店　舗	5
その他建物	１３
宅地造成	１０
土地区画整理	1
公園造成	1
観光開発	1
ガス等	2
農業基盤整備	8
その他農業	１３
その他開発	8
保存目的	6
学術研究	7
合　計	９８

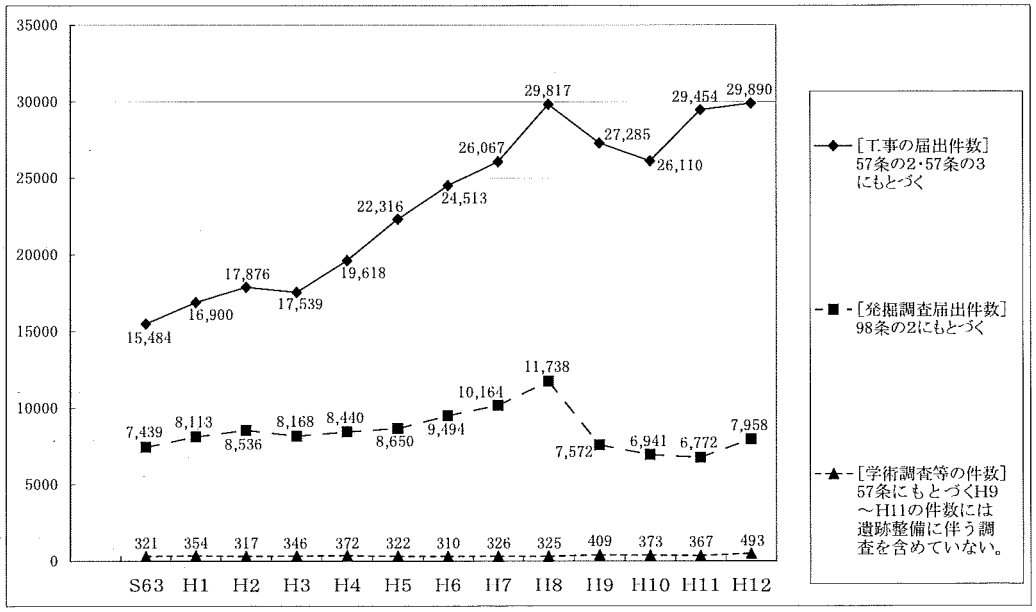
平成12年度事業別発掘調査届出件数内訳

また，原の辻遺跡が11月24日にこれまで念願であった特別史跡の指定を受けたことは，本県の文化財保護行政にとって画期的な出来事であり，今後の保存活用と整備がなお一層推進することが期待される。　　（宮　﨑）

工事の届出・発掘調査届出等件数の推移グラフ（長崎県）



工事の届出・発掘調査届出等件数の推移グラフ（全国）



「埋蔵文化財関係資料」文化庁文化財部記念物課 平成13年12月より

二　県事業について

1　埋蔵文化財の開発に伴う現地踏査及び発掘調査

県文化課では，各開発行為に伴い現地調査を実施し，その結果に基づいて埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い文化財の保護・保存に努めている。その協議の結果，範囲確認調査や緊急発掘を実施している。今年度，県文化課が主体となった調査内容は次のとおりである。

本調査に至る

・国道34号大村拡幅計画事業関係　　玖島城跡（大村市）

・県道野田島原線道路改良工事関係　　稗田原遺跡（島原市）

・県立島原高等学校体育館改築事業関係　　森岳城跡（島原市）等の発掘調査を実施した。

範囲確認調査として，

・主要遺跡内容確認調査事業関係　　長崎鼻遺跡（宇久町），礫石原遺跡（島原市）

・草花温室改築実習地整備事業関係　　諫早農業高校遺跡（諫早市）

・国道251号線改良工事関係　　鍵峰城跡（瑞穂町）

・阿連川河川改修工事事業関係　　雷命神社下遺跡（厳原町）等の発掘調査を実施した。

また，県内各市町村事業に伴い県が調査担当及び支援した主な遺跡は次のとおりである。

・学校給食センター新設事業関係　　浜遺跡（有川町）

・遺跡整備事業関係　　金田城跡（美津島町）

・緊急雇用促進事業関係　　水崎（仮宿）遺跡（美津島町）

・砂防ダム建設事業関係　　東鷹野遺跡（有明町）

・農道改良事業関係　　家ノ隈遺跡（豊玉町）

・駐車場造成・倉庫整備事業関係　　一野遺跡（有明町）等の発掘調査を担当・支援した。

以上の発掘事業のほかに，調査終了した遺跡の報告書刊行事業を行った。これらの発掘調査事業は報告書の刊行をもって事業完了となるが，刊行までには発掘調査に従事した期間と同等かそれ以上の整理期間を必要とする事業である。　（荒　井）

開発部局基礎講座　東彼杵町歴史民俗資料館

2　埋蔵文化財普及啓発活動の推進

・開発部局担当者基礎講座

日時：平成12年6月7日（水）～6月8日（木）

場所：長崎県農協会館会議室

本講座は県内の国・県・市町村の開発部局の担当者を対象に，埋蔵文化財保護行政の概要を解説し，理解や協力を得ることを目的とした。

一昨年まで，県内の各教育事務所管轄地ごとに会場を設け，文化課の担当者が出向き，分散して開催してきたが，長崎市において集中的に開催することにした。さらに巡検地に出向き，実際の発掘調

査現場や資料館などを見学することによって，開発担当者の埋蔵文化財への理解の一助にしてもらうことにした。参加者は約180名である。

内容は1日目に，文化財保護法の改正，埋蔵文化財に関する諸手続き，埋蔵文化財の保護と開発事業との調整，埋蔵文化財保護行政の現状と展望などの説明をおこなった。午後からは文化庁記念物課坂井秀弥調査官による「埋蔵文化財保護行政の現状と展望」と題する講演をおこなった。

2日目は，貸切バス2台に分乗して，出島の見学をおこなったのちに，東彼杵町歴史民俗資料館を訪ねた。

・埋蔵文化財実践講座

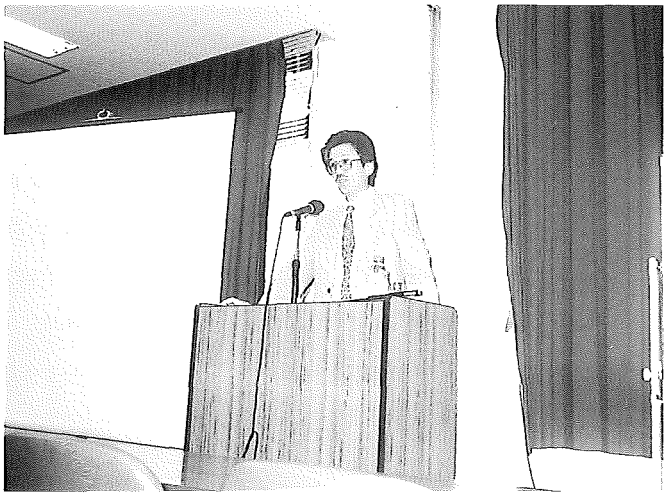
日時：平成12年8月16日（水）～8月18日（金）

場所：勤労福祉会館

本講座は一昨年まで発掘技術研修「専門課程」という名称で11年間継続して実施してきたものだが，近年教職員や一般の方も多く参加することから，発掘技術の専門的内容に限定せず，幅広く「埋蔵文化財」全般をあつかう研修にしたいということで，昨年度から名称を新たに「埋蔵文化財実践講座」として実施することになった。参加者は約80名であった。

今回は群馬県埋蔵文化財調査事業団の坂井隆氏を講師に迎え，「長崎と東南アジア」というテーマで講演していただいた。講演は3部構成で，伊万里産陶磁器のアジア輸出，アジア港市と長崎，唐人墓と人々の交流であった。

後半は波佐見町教育委員会学芸員の中野雄二氏に「近世波佐見焼の展開」というテーマで講演を依頼した。波佐見町の地理・歴史から説き起こし，波佐見焼の調査研究の歴史さらに編年と波佐見焼の概論を話していただいた。



埋蔵文化財実践講座　講師：坂井　隆 氏

埋蔵文化財実践講座　講師：中野 雄二 氏

・長崎県市町村文化財担当者会議

日時：平成12年9月8日（金）

場所：県庁新別館9Ｆ会議室

県内の文化財担当者を集めての，毎年恒例の会議である。本年度は発掘作業員の雇用形態について，指定文化財の管理について，埋蔵文化財発掘作業の生体負担解明とその対策に関する研究，文化財保護法の改正について，および文化財保護法改正に伴う文書様式について説明をおこなった。参加者は

約70名であった。

・公共工事と埋蔵文化財保護にかかる連絡調整会議

日時：平成13年2月15日（木）

場所：県庁新別館9階A会議室

本県におけるこれまでの各種開発事業との調整は，農業関連事業以外については，そのつど必要な個別協議を重ねることで対処してきたが，平成9年度から，これまでの個別協議に加え，国・県・公団などからなる公共工事関係部局と文化財保護部局との定期的な連絡協議の場を設けた。

今年度は埋蔵文化財の保護について，文化財保護法の改正と地方分権，公共工事と埋蔵文化財の保護に係る連絡調整会議の経過および来年度の計画についての説明をおこなった。参加者は40名であった。（古　門）

3　ふるさと古代遺産保存継承事業

①県内主要遺跡内容確認調査事業

本事業は，平成8年度から実施しており，県内の特筆すべき遺跡についてその内容や範囲などを確認することを目的としている。この事業により，遺跡の範囲を特定し開発行為との連絡調整をはかるための資料の作成や，遺跡の内容を具体的に知る手がかりが得られるものと考えている。事業そのものは，市町村の教育委員会に多くの協力を得て実施されており，今後も先の目的を御理解頂いて，事業が円滑に実施できるよう御協力をお願いしながら継続したい。

平成12年度の調査は，島原市に所在する礫石原遺跡の調査と，宇久町所在の長崎鼻遺跡の調査を実施した。礫石原遺跡は，縄文晩期の遺跡として著名で，過去の調査で墓地群が確認されるなどの成果を得た遺跡である。長崎鼻遺跡についても五島列島の縄文文化を知る上で，その重要性が指摘されていた遺跡である。調査の内容については平成13年度刊行予定の報告書「長崎県埋蔵文化財調査年報9」を参照して頂きたい。（福　田）

②親子古代技術体験事業

県では，「人づくり」をテーマとして様々な事業を進める中で，ふるさとと共に生きる人材の育成にも努めている。その一環として，平成11年度より『親子古代技術体験事業』を実施しており，今回で2年目にあたる。この事業は，親子の触れ合いの場を提供することと，郷土の歴史に興味関心を深めてもらうことを目的としている。親子で協力して火おこしや勾玉づくりなど体験的な活動に取り組み，楽しんでもらうことで，文化財保護の大切さを地域の人たちや子どもたちに理解してもらおうとするものである。

親子古代技術体験事業（火おこし）於：吉井町立北小学校

具体的には，文化課職員が県内の小学校に出向き，高学年児童及びその保護者を対象に，ゆとりの時間や余裕教室等を利用して実施するもので，内容は古代技術体験として“舞きり”を使った『火おこし』と，軟らかい石をブロックやヤスリで削って作る『勾玉作り』などである。保護者を含めて3～4人で1組のグループをつくり，作業はグループで協力しながら行う。併せて小学校周辺にある遺跡の紹介や，県内の遺跡から出土した本物の遺物にも実際に触れてもらい，その使用方法等の説明を行った。12年度は8校を訪問した。事業実施校は次のとおりである。

	日　時	実　施　校	児童数(人)	教職員数(人)	保護者数(人)	合　計
1	5月26日3･4校時	野母崎町立高浜小学校	44	4	18	66
2	6月8日5･6校時	上五島町立青方小学校	39	3	28	70
3	6月23日2~4校時	厳原町立豆酘小学校	44	3	22	69
4	7月13日5･6校時	瑞穂町立大正小学校	25	2	12	39
5	9月26日5･6校時	佐世保市立三川内小学校	42	2	28	72
6	10月11日3･4校時	長崎市立南長崎小学校	102	3	54	159
7	11月21日2~4校時	佐世保市立潮見小学校	36	3	14	53
8	11月28日5･6校時	吉井町立北小学校	41	3	12	56
合計			373	23	188	584

実施後，昨年度に引き続き，児童・保護者・教師を対象にアンケート調査を行ったところ，全実施校にわたり，事業は全体的に高い満足感が得られ，好評のうちに終了したことがわかる。多くの保護者に事業に対する理解が得られ多数の参加をいただいた。児童にも古代の生活や郷土の歴史への興味を喚起できたと思う。

全実施校の参加児童の反応を，アンケート項目ごとに割合（%）で示すと次のようになる。

平成11年度アンケート集計結果(全実施校参加児童対象)

項目＼評価	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか?	91 %	8 %	1 %	0 %
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか?	53 %	32 %	14 %	1 %
③火おこしは楽しかったですか?	68 %	17 %	8 %	7 %
④火おこしはうまくいきましたか?	31 %	19 %	22 %	28 %
⑤勾玉作りは楽しかったですか?	86 %	12 %	2 %	0 %
⑥勾玉作りはうまくいきましたか?	44 %	32 %	17 %	7 %
⑦仲間(保護者)と協力して作業できましたか?	65 %	21 %	11 %	3 %

(◎･･大変良い　○･･良い　△･･ふつう　×･･あまり良くない)

平成12年度アンケート集計結果(全実施校参加児童対象)

項目＼評価	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか?	86 %	12 %	2 %	0 %
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか?	40 %	40 %	18 %	2 %
③火おこしは楽しかったですか?	73 %	19 %	6 %	2 %
④火おこしはうまくいきましたか?	38 %	25 %	19 %	18 %
⑤勾玉作りは楽しかったですか?	85 %	11 %	4 %	0 %
⑥勾玉作りはうまくいきましたか?	41 %	32 %	19 %	8 %
⑦仲間(保護者)と協力して作業できましたか?	63 %	27 %	9 %	1 %

(◎･･大変良い　○･･良い　△･･ふつう　×･･あまり良くない)

事業内容を個々に省みると，まず『火おこし』は，児童にとってたいへん楽しく取り組むことができたという評価が得られた。時間内に火をおこせなかったグループもあり，「楽しかったが達成感が

いまひとつ得られなかった。」という結果がうかがわれる。ただし，アンケートの項目 ④「火おこしはうまくいきましたか？」をもとに昨年度結果と比較すると，◎○合計の割合が50％から63％と伸び，火おこしに成功したグループが増えたことを示している。実際に，30分間ほどの時間内に全グループ火おこしに成功した学校があった。火おこしの道具の設定を均一な状態に整備することについては，昨年度以上に達成できたと思う。今後も全グループが火おこしに成功するよう，広く学校現場の先生方にも指導者となっていただけるようはかりたい。また『勾玉作り』は，今年度も火おこし以上に楽しく取り組めたとの評価を得た。児童一人一人が造形したものを持ち帰ることができる点が，喜ばれているのであろう。アンケートにも「お母さんと久しぶりに作り方のことでまじめに話し合いながら作った。」との声が多数寄せられ，本事業の趣旨の１つである“親子の触れ合いの場を提供すること”を満たした実感を受けた。時間的な制約からか，満足のいくまで仕上げられなかった児童の様子もうかがわれるが，一方で「家に持ち帰って続きをした。」との声も多く，たいへん喜ばしく思った。また『小学校周辺の遺跡の紹介』については，不十分な時間で終わった学校があったが，実際に県内で発掘された遺物に触れてもらうことを中心にまとめた。ほかアンケートには，児童・保護者より，「次は土器作りをしたい」「古代食作りをしたい」「遺跡めぐりをしたい」などの要望があり，これらの提案を参考に取り上げながら，次年度に生かしたい。そして，本事業は，学校現場においても，今後導入される総合的学習への取り組みを支援し，体験学習のきっかけを提供するという意味でも，大いに役立てられていると思う。（山　口）

４　原の辻遺跡保存・活用整備事業

長崎県では，中国の歴史書「魏志倭人伝」に記載された「一支国」の王都に特定された原の辻遺跡の特性を活かした保存整備を促進し，地域振興の核として活用と活性化を図るために，原の辻遺跡関係の事業として保存活用事業と保存整備事業を実施した。平成12年度の事業は，以下の内容である。

①原の辻遺跡保存活用事業

・原の辻遺跡発掘調査（国庫補助）

・原の辻遺跡調査事務所と壱岐・原の辻展示館の管理運営

・九州北部三県姉妹遺跡締結記念「三遺跡交流こどもフォーラム」の開催（8月3日～4日）

・調査指導委員会の開催（9月1日，11月30日）

・「要覧」，「原の辻ニュースレター」第7号～第9号の刊行

・出土遺物の複製・保存処理，記録用ビデオ作成

・出土遺物整理（緊急地域雇用特別交付金対策事業）

②原の辻遺跡保存整備事業

・史跡整備のための調査（芦辺町・3,000㎡），保存整備委員会の開催（国・県補助）

・土地の公有化（国・県補助）

・重要遺構の特定調査「環濠等状況調査」（県単独事業）

・拠点遺構発掘調査（緊急地域雇用特別交付金対策事業）697㎡

①と②の事業は，管理運営・保存整備・公有化，保存活用，普及啓発，発掘調査・遺物整理などの内容である。「三遺跡交流こどもフォーラム」は，佐賀県が幹事県となり，吉野ヶ里遺跡と三田川町

総合福祉保険センターなどを舞台に開催された。壱岐，福岡県甘木市，佐賀県三田川町・神埼町・東背振村の99名の小学生が，遺跡・遺物見学，発掘体験，こども会議などの交流をおこなった。緊急雇用事業は，「出土遺物整理事業」と「拠点遺構発掘調査事業」を平成11年度から平成13年度までの継続事業として実施した。次に，原の辻遺跡で県が実施した発掘調査について概要を述べる。

・原の辻遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）

平成12年度は，台地西北部低地の芦辺町不條地区と台地南部の石田町大川・原ノ久保地区を対象に1,347㎡を発掘調査した。不條地区では，平成10年度調査区の西側に調査区を設定し，弥生前期末～中期初頭に溝、弥生中期の土壙，柱穴などの遺構が検出された。台地南部では，大川地区で断面Ｖ字形の濠1条が新たに発見され，原ノ久保Ａ地区で箱式石棺墓1基と小児甕棺墓2基が検出された。

・調査研究事業環濠等状況調査（特定調査）

平成12年度の特定調査は，平成11年度に引き続いて台地西北部の低地，不條地区と八反地区を対象に1,300㎡ の発掘調査を実施した。その結果，旧河道2条，濠1条，溝2条，土壙，土器溜，旧河道に人為的に築かれた集石遺構などが検出され，弥生時代遺跡では国内最初の中国貨幣である「大泉五十」が出土した。

・農道調査・県道調査

保存整備・活用事業に伴うものではないが，台地西側の低地八反地区の当該調査では，県教育委員会と石田町教育委員会が518㎡発掘し，水田跡と思われる遺構や弥生時代から古墳時代の溝などの遺構が検出され，台地西側低地に水田地帯が広がっていたことが確認された。　（宮　﨑）

三　調査の動向

2000年度の工事の届等件数は143件で，前年度比35％の減。発掘調査件数は，試掘確認調査が実施されたもの52件で，うち本発掘調査を実施したもの46件である。

本発掘調査の原因別では，道路5件，河川1件，港湾1件，ダム2件，学校建設1件，住宅1件，工場1件，店舗2件，その他建物8件，土地区画整理1件，農業基盤整備2件，農業関係8件，その他開発5件，その他8件であり，農業基盤整備事業等農業関係の占める割合が高いのは前年度同様である。

埋蔵文化財専門職員は県を含め64名（内嘱託10名）である。8市域部は21名（内嘱託4名）で全置状態であるが，71町村域部では21町22名（内嘱託1名）であり，実に3割以下の専門職員の配置状況である。地方分権が着実に進んでいるさなか，地方自治法をはじめ文化財保護法の改正もなされ自治体の独自性・主体性が問われる時代になりつつある。自治体住民に密着した埋蔵文化財行政の推進を確立するためにも県内全自治体への専門職員の早急な配置が切に望まれる。

次に2000年度の概要を報告する。

【旧石器時代】

平戸市入口遺跡では，民間開発に伴う発掘調査で良好な旧石器遺物群を検出している。入口遺跡は上床（405m）から延びる玄武岩台地先端部の標高40m前後に立地する。遺跡は3地区に別けられ，それぞれ696地区，700地区，741地区で約2,000㎡に展開した開地遺跡である。696地区からは文化層が2枚確認された。上位の2層はAT前後の層でナイフ形石器と原の辻形台形石器がその分布範囲を弁別できる状態で出土し，3層の無遺物を挟んで4層の文化層が存在する。この4層からは阿蘇4が確認され，同層上位から珪化木製の削器・ハンマーストーン，石材不明のハンマーストーンが3点出土し中期旧石器の所産と予想される。また700地区からはAT前後の層でナイフ形石器と原の辻形台形石器が，741地区からはナイフ形石器，三稜尖頭器，大型剥片等が検出され，3地区合わせて約3,000点ほどの石器群が確認された。編年的位置付けは，調査地点ごとに多少の時間差があるようであるが，696地区の4層文化層と萩原編年ナイフ形石器文化中期末～後期初頭に相当するとしている。

佐世保市日宇川水系支谷に位置する天神洞穴（間口8m，奥行3m，庇高2m）は1962年に発見され，後年の試掘調査で縄文後期の土偶（足部分）を含む縄文早期・晩期の遺跡として認識されていたものの，明確な生活面を確認できなかった。しかし，今次市道工事に先立ち実施した試掘調査及び本調査で，弥生時代から旧石器時代に及ぶ6層・2m程度の包含層を確認した。最下層・6層は旧石器時代の包含層で明確な器種構成は把握されなかったものの，厚手縦長剥片，エンドスクレイパーなどから泉福寺洞窟12層の遺物との類似性が指摘された。5層は岩下洞穴8層相当の列点文土器，4層は縄文早期押型文土器，3層からは曽畑式土器，轟B式土器など前期の土器が，3層上面からは並木式土器などが確認された。特に5・4層において早期の2枚の文化層が捉えられ，洞穴利用の拠点的遺跡の性格が読み取れるという。

【縄文時代】

福江市浜郷大字大坪の中島遺跡第3次調査が，熊本大学考古学研究室を中心に実施された。小規模の発掘調査ながら縄文時代前期と後期の2枚の包含層が確認された。9・8層の前期層は轟式土器を主体と

し，7・6層の後期層は鐘ヶ崎式，北久根山式，西平式を主体とし，黒曜石製剥片鏃，玄武岩製で両刃に近い片刃磨製石斧，ベンケイガイ貝輪未製品やフネガイ製貝輪などが出土している。また，動物遺存体は哺乳類で小型のニホンジカが大多数でイノシシ，イヌがこれに次ぎ，海獣類はイルカ類，クジラ目，ニホンアシカ（棲息南限）が検出されている。魚類はスズキ科，ハタ科の沿岸又は内湾性のものが検出され，また1㎜メッシュでの検出作業を行ったにも拘わらず小型魚類やその椎骨の検出も僅少であり，石錘の未検出と併せて網漁の不存在を想定し，代わりにスケ漁（石干見）の存在を想定している。

【弥生時代】

北松浦郡田平町の里田原遺跡では，平成9年度から国営圃場整備事業に係る発掘調査が連年実施されている。本年度は水田部東南域の径80mほどの森山神社を祭る小丘を中心に調査を実施し，墓域，生活域を検出している。墓域は小丘の東から南にかけて検出され甕棺4基，木棺墓2基，土壙墓1基の域と石棺墓4基の域の2地域がある。時期は中期初頭から後期前半で累世墓的な様相を見せる。甕棺墓域のうち3号甕棺からは小形壷の副葬とともに多鈕細文鏡（出土例は全国で10遺跡・11例目）が鏡面を上にして検出された。径は9.1㎝，鈕は3個で蒲鉾縁をなし，凹面鏡で2区画の文様帯をもつ。外区は外向鋸歯文でこの部分に平行線を充填し，内区は方・長方形区画に斜線で区分した充填三角文から構成される。なお同鏡は甲元分類（『古文化談叢』第22集，1990）の第Ⅰ型式Bに分類され，時期は中期初頭である。また2号甕棺からは鉄製鉇，ガラス玉を出土し，近傍からイモガイを模した銅釧が検出されるなど充実した内容を見せる。さらに小丘北方においては住居址にともなうと考えられるピット群が確認され，生活域と墓域がセットとして把握できる環境下にあると評価され，拠点的集落の存在が想定できよう。

壱岐の原の辻遺跡では範囲確認調査や遺跡特定調査事業，県営圃場整備事業に伴う農道建設工事など各種の調査が実施されている。主要遺構を載せる丘陵西部の時期的変遷も把握でき，徐々にではあるが遺跡の構造が明らかにされつつあり，また複雑な様相を示し始めている。検出遺構は芦辺町域・不條・八反地区で旧河道2条，濠1条，溝2条，土壙10基，土器溜り1，集石遺構等を確認し，前期末からの居住域の変遷，旧河道と船着き場との関連など徐々に闡明化しつつある。また遺物も多量の弥生土器に共伴して朝鮮半島系土器を検出，金属製品として「大泉五十」や青銅製鏃，各種石斧・石包丁などの製品・未製品が砥石とともに検出されている。木製品も機織用品，又鍬などの耕作用具，竪杵・横杵などの生産調整用具，建築部材，造船部材など多様な遺物が出土した。農道建設工事前調査では7条の溝，畦畔に矢板列を伴う水田跡（C_{14}補正値，2440年（±70年））を，範囲確認調査の不條地区では生活・農業用の用・排水路と想定される前期末～中期初頭の溝2条，中期前半の土壙6基，中期後半の土壙11基を，石田町域・大川地区では中期前半～後半の幅約3.3m，深さ約1m断面V字形の溝や柱穴群を，原ノ久保地区では2基の小児甕棺墓と石棺墓1基を確認した。

壱岐郡郷ノ浦町の戸田遺跡では中期から後期の土壙墓1基が確認され，また幅4mを測る断面V字形の濠を1条確認している。掘削方向は東西方で先年調査の車出遺跡の濠に連接する環濠を想定している。時期は中期から後期をとおして利用され，古墳時代に埋没・機能廃止したものと推定している。

南高来郡国見町十園遺跡で中期後半の遺物を含む環濠が2条確認された。規模は幅約2m，深さ0.5mの逆台形で，後世の削平・撹乱で多くを消失している。住居址は3棟確認した。4×5mの隅丸長方形で，

深さ0.5m，中央に炉を配し，約5cmほどの貼り床を造作している。時期は環濠同様中期後半の所産である。遺物は中期後半の斉一性が高いもので，黒髪式と在地・北九州系土器の割合は半々である。本遺跡は圃場整備事業に伴う農道・用排水路建設に係る事前調査のため限られた範囲での調査であり，拠点的集落はかなりの広範囲に及ぶものと推定される。

【古墳時代】

南高来郡有明町一野遺跡は雲仙火山群を構成する舞岳（702m）から扇状に北東位に延びる緩傾斜面の端部にあり，標高15m前後を測る。国道251線を挟んで東西に遺跡は展開するが，このうち東部分の調査が実施され，縄文時代早・中期の包含層を切るような形で8基の古墳が営まれている。全て円墳であり，後世の撹乱により墳丘や主体部の多くは消失していたが，7～12mの周濠はそれぞれ切合うことなく残されており，累世的な古墳群と考えられる。内部主体は竪穴系石室，箱式石棺，竪穴系横口式石室，横穴系石室の4類型が認められ，また，内部主体の変遷も周濠出土土師器・須恵器の検討から同様の推移を想定している。築造時期は竪穴系で須恵器を共伴しない段階の5号墳を最古とし4世紀末頃を，最新は横穴系で土師器・須恵器を伴う3号墳を5世紀末に位置付ける。また竪穴系から横穴系へと変遷する過渡的段階に位置する竪穴系横口式石室を内部主体とする1号墳を5世紀第4四半期古段階に位置付けている。さらに，内部主体が竪穴系から横穴系へ変遷するに従い，周濠出土供献土器群が内部主体の片・両側方から横口或いは羨道部に移動する傾向が窺えると指摘している。

対馬下県郡厳原町では国指定史跡矢立山古墳群のうち1号墳の発掘調査を実施した。これは古墳群整備事業の一環として同教育委員会と福岡大学考古学研究室合同で行ったものである。調査の結果従来円墳とされていた墳形は，三段築成の方墳であることが判明した。下段は自然地形を利用・加工して11mの方形に造作し，中段は7m四方に，上段は5m四方に築成し，表面を板状石材で被覆した積石塚の外観を呈していた。内部主体は無袖単室の直方体横穴式石室で，平面形は長方形，法量は奥行2.9m，幅1.55m，高さ1.87mを測り，床面には板状平石を敷き詰める手法を採用している。前庭部からは墓前祭祀を行ったと思われる須恵器，土師器などが約50点ほど出土し，この遺物群から7世紀後半頃まで追葬使用された終末期のものと推定される。被葬者は7世紀代の対馬下県直クラスの墓所であろうとしている。

【古代】

南高来郡国見町の小中野B遺跡において，おおむね7世紀終末から8世紀初頭の包含層および柱穴が確認され，近傍の小中野A遺跡，石原遺跡，五万長者遺跡との関連性が強く窺え，本県において数少ない律令期の郡衙の所在，郡司の諸相が把握可能な重要遺跡群と思われる。特に本域において「宮」，「益」，「万」，「圓」、「上」などの墨書，刻書土器が7点確認されており，その観をさらに強くさせる。

【中世】

下県郡美津島町に所在する水崎（仮宿）遺跡は，浅茅湾を中心に15世紀前後に活躍した海商早田氏の本拠地の一つとして考えられている。仮宿という地名は1471年に記された『海東諸国紀』中に現れ，戸数200戸があったとする。出土遺構は建物を構成する柱穴群や敷石などが20数カ所で確認された。また出土遺物は中国産の青磁・白磁，朝鮮王朝産の紛青沙器，東南アジア産の磁器，輸入貨銭，メノウ製石帯など国際色豊かであり，このうち中国産陶磁器と朝鮮産陶磁器の割合が3:7ほどであるという。遺跡の主体となる磁器は出土遺物の検討から14世紀後半～15世紀代と，16世紀後半から17世紀前葉に

画期が認められるという。

南高来郡国見町の小中野B遺跡において，幅5m，深さ1.5m，堀底幅1.5mの堀跡が検出された。堀底近くから糸きり土師器が検出され，遺構の性格は十分に捕捉出来ないものの中世期以降の所産であることを窺わせる。

元寇の島で知られる北松浦郡鷹島町では，神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査が実施され，海抜－11.8m，－12.82mから元寇船部材と思われる木材を検出した。一つには鉄釘らしきものの痕跡が，あと一つには掘り抜き加工痕が看取される。また同部材に関しAMS^{14}C年代測定が名古屋大学年代測定総合研究センターとの協同で行われ，1202年，1216年前後の年代観が得られた。また先年採取の碇石竹策，碇石木材も測定されそれぞれ1279年，1269年前後の年代観が提示された。さらに碇石の産地同定もなされ，中国福建省泉州付近産のものと分析された。これらのことにより，弘安の役に難破した元寇の船であることが確実視される。東アジア全体を視野に入れた多角的研究の必要性が認められることや，また水中考古学の進展に寄与すること多大であり，継続した調査の必要が認められる重要遺跡である。

【近世以降】

南高来郡南有馬町の原城では，堅固な虎口遺構と城門跡の確認がなされた。同城は1496年有馬貴純が日之江城の支城として築城し，有馬晴信（1561～1612）が補強したとされる。イエズス会宣教師1604年の報告に「晴信の居城が完成し，キリスト教による祝福を受けた」と記している。島原の乱後は幕府により破却され，築城材は島原城築城の際移送されたという。城門一体の大手は南北90m，東西80m内に幅6～7mの通路が10回ほど折れ曲がって城門に連接する虎口をなしていた。調査では1段の石垣と礎石を残すまでに破壊されていた。またこの周辺から県内13例目となる「花十字紋」軒丸瓦が出土している。

島原城は島原藩4万石の居城で，三の丸部分で調査が実施された。遺構は幅5.2mと1mの溝2条，柱穴列2列，性格不明の土壙，廃棄土壙2を確認している。遺物の大半は瓦類であるが撹乱層出土であり，遺構の時期の特定が困難というが，文献資料から松平忠房入封時の堀造作の記事から寛文13（1673）以降の年代観を想定している。

大村市では大村氏の居城・玖島城の調査が実施され，17世紀初頭推定される焼土層からオランダ陶器のアルバレロ形壷片を絵唐津，中国産陶器とともに確認した。また同城堀の外域の大村藩会所跡と想定される建物跡などから長与三彩の蓋付碗片など10点が出土した。

長崎市では勝山小学校の跡地が校舎建設前の調査で発掘された。調査の結果1609年に建設され，幕府の禁教令により5年後に破壊されたサント・ドミンゴ教会と想定される建物跡が確認された。記録によれば敷地内には修道院，墓地，井戸などがあったとし，今回の調査では建物跡，石畳，排水路，井戸，石組の地下室などが検出された。また20点を数える花十字文軒丸瓦やメダイなどの関連遺物も出土している。日本におけるキリスト教史を語るうえで，考古学上・文献史上合致する遺跡であり，また教会の在り方を研究するうえでも貴重であり，その保存・活用を含め最重要遺跡として評価・注目される。

遺跡の指定関係では，東彼杵郡波佐見町の畑ノ原窯跡，三股青磁窯跡，長田山窯跡，中尾上登窯跡，永尾本登窯跡，皿山役所跡，三股砥石川陶石砕石場の７遺跡が「肥前波佐見陶磁器窯跡」として国の

史跡に指定された。

県教委が実施した原の辻大学講座「一支国探訪」が「戦い」（長崎原爆資料館），「環濠集落」（佐賀市文化会館），「葬制と祭祀」（島原文化会館）の3テーマ・3会場で講演・調査報告が実施された。

研究会活動としては，長崎県考古学会の総会・大会が例年のごとく実施された。総会は長崎大学医学部ポンペ会館において7月1・2日の日程で行われ，総会行事の後，前年度主要遺跡の事例発表を5件取り上げた。秋の大会は11月11･12日，南高来郡南有馬町の原城文化センターで実施した。本県に縁の深いキリシタン関係遺跡・遺物研究の現状分析と今後の研究方法の確立を問題提議し，県内遺跡等5件の事例発表と発掘調査の進む原城，日野江城，キリシタン墓碑等の見学を実施した。

また，西海考古同人会も着実な月例活動を続け，その成果として『西海考古』第3号が刊行された。

（諫早市教育委員会　文化課　秀島貞康）

＜報告書＞

1. 有明町教育委員会「一野遺跡Ⅱ」　有明町文化財調査報告書第14集
2. 長崎県教育委員会「長崎県埋蔵文化財調査年報8-平成11年度調査分-」長崎県文化財調査報告書第158集
3. 長崎県教育委員会「県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ」長崎県文化財調査報告書第159集
4. 長崎県教育委員会「平野遺跡」長崎県文化財調査報告書第160集
5. 長崎県教育委員会「稗田原遺跡Ⅴ」長崎県文化財調査報告書第161集
6. 長崎県教育委員会「栄町遺跡」長崎県文化財調査報告書第162集
7. 長崎県教育委員会「石田城跡Ⅱ」長崎県文化財調査報告書第163集
8. 長崎県教育委員会「原の辻遺跡」原の辻遺跡調査事務所調査報告書第21集
9. 長崎県教育委員会「原の辻遺跡」原の辻遺跡調査事務所調査報告書第22集
10. 長崎県教育委員会「原の辻遺跡」原の辻遺跡調査事務所調査報告書第23集
11. 長崎市教育委員会「唐人屋敷跡―十善寺地区コミュニティ住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―」
12. 長崎市教育委員会「唐人屋敷跡―長崎市館内町33番１における埋蔵文化財発掘調査報告書―」
13. 原の辻遺跡保存等協議会「原の辻遺跡」原の辻遺跡保存等協議会調査報告書第2集

＜論文・報告＞

1. 安楽勉「原の辻遺跡と港」『考古学ジャーナル』No. 474
2. 今村明「歴史公園「大村純忠史跡公園」の整備」『西海考古』第3号
3. 大石一久「日引石塔に関する一考察」『大村史談』第52号
4. 尾上博一「清水山城・金石城」『西海考古』第3号
5. 川口洋平「近世長崎の発掘調査―近年の調査成果から―」『日本考古学』第11号
6. 川口洋平「覩城跡」『西海考古』第3号
7. 川瀬雄一「沖城」『西海考古』第3号
8. 川道寛「福井洞穴第15層石器群の再評価」『九州旧石器』第4号
9. 木村岳士「史跡　日野江城跡発掘調査の現状」『西海考古』第3号

10. 木本雅康「古代の道路事情」『歴史文化ライブラリー』108吉川弘文館
11. 白石純英「波佐見焼・初期の諸相」『大村史談』第52号
12. 田中純也「特別史跡金田城跡の調査結果について」『西海考古』第3号
13. 塚原博「小値賀及び五島列島北半の中世城館遺跡」『西海考古』第3号
14. 土橋啓介「島原城外郭遺構について」『西海考古』第3号
15. 中野雄二「国指定史跡「肥前波佐見陶磁器窯跡」について」『大村史談』第52号
16. 久村貞男「武辺城跡と井手平城跡の発掘調査」『西海考古』第3号
17. 福田一志「桟原城（屋形）跡」『西海考古』第3号
18. 福田一志「岐宿城跡」『西海考古』第3号
19. 福田一志「城岳城跡」『西海考古』第3号
20. 古門雅高「矢上城跡」『西海考古』第3号
21. 古門雅高「中尾城」『西海考古』第3号
22. 本田秀樹「小薗城跡」『西海考古』第3号
23. 本田秀樹「いま，「長崎県内の城郭」がおもしろい」『西海考古』第3号
24. 松川憲毅「坂口館跡」『西海考古』第3号
25. 松崎義治「石田城及び五島氏の沿革」『西海考古』第3号
26. 松本慎二「原城」『西海考古』第3号
27. 村川逸郎「直谷城主「志佐氏」の領地と海上交易圏」『西海考古』第3号
28. 吉福清和「中世山城の根小屋をめぐって」『西海考古』第3号

＜その他＞

1. 長崎県教育委員会「一支国探訪―平成12年度原の辻大学講座記録集」
2. 長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所「原の辻ニュースレター第9号」

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月
第1集	長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第2集	五島遺跡調査報告	1964,
第3集	民族資料調査報告書	
第4集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第5集	深堀遺跡	
第6集	男女群島特別調査報告	1968,3
第7集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968,3
第8集	対馬－豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第9集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970,9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972,3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972,3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974,3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974,3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975,3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976,3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第1集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976,3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977,1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977,3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977,3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977,3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977,3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978,3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979,3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979,3
第40集の2	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979,3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979,3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979,3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979,3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979,3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980,3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980,3
第48集	キリシタン関係資料	1980,3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980,3
第52集a	ケイマンゴー遺跡	1980,9
第52集b	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981,3
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981,3
第54集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981,

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月
第55集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981,3
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982,3
第59集	島原・南高の文化財	1982,3
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982,3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982,3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983,3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983,3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983,3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983,3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984,3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1984,3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985,3
第71集	名切遺跡	1985,3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第78集	百花台遺跡	1985,3
第79集	長崎県の近世寺社建築　　近世寺社建築緊急調査報告書	1986,3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986,3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986,3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1986,3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986,3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987,3
第87集	長崎県遺跡地図	1987,3
第88集	長崎県の民謡	1987,3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988,3
第90集	中道壇遺跡	1988,3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988,3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988,3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989,3
第95集	魚洗川B遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告	1990,3
第96集	長崎県の諸職調査	1990,3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990,3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告	1991,3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991,3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991,3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991,3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992,3
第105集	上大垣遺跡	1992,3
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992,3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992,3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993,3
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993,3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994,3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994,3

四　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧③

No.	報　告　書　名	発行年月
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994,3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994,3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994,3
第115集	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994,3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994,3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995,3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995,3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995,3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995,3
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995,3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995,3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995,3
第124集	原の辻遺跡	1995,3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996,3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996,3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996,3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996,3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996,3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996,3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997,3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997,3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997,3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997,3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997,3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997,3
第137集	広平遺跡	1997,3
第138集	桟原城跡	1997,3
第139集	石田城跡	1997,3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998,3
第141集	大浜遺跡	1998,3
第142集	蒲河遺跡	1998,3
第143集	沖城跡	1998,3
第144集	桜町遺跡	1998,3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998,3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998,3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998,3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998,3
第149集	馬乗石遺跡	1998,3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999,3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999,3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999,3
第153集	長崎県のカクレキリシタン－長崎県カクレキリシタン習俗調査事業報告書－	1999,3
第154集	長崎街道－長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書－	2000,3
第155集	長崎県埋蔵文化財調査年報７	2000,3
第156集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000,3
第157集	稗田原遺跡Ⅳ	2000,3
第158集	長崎県埋蔵文化財調査年報８	2001,3
第159集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001,3
第160集	平野遺跡	2001,3
第161集	稗田原遺跡Ⅴ	2001,3
第162集	栄町遺跡	2001,3
第163集	石田城跡Ⅱ	2001,3
第164集	長崎県埋蔵文化財調査年報９	2002,3
第165集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅴ	2002,3
第166集	森岳城跡	2002,3
第167集	玖島城跡	2002,3
第168集	千里ヶ浜遺跡	2002,3
第169集	歴史の道整備活用推進事業　長崎街道整備活用計画報告書	2002,2
第170集	長崎県の祭り・行事調査報告書	2002,3

五　平成7年度から平成12年度にかけての事業別発掘調査届出件数の推移

		平成７年	平成８年	平成９年	平成10年	平成11年	平成12年
緊急調査	道路	２０	１４	１２	１２	１５	８
	河川	４	１	１	１	２	１
	学校	２	２	２	４	４	１
	住宅・宅地造成	３５	３１	１５	１０	２８	１３
	工場	０	２	０	０	１	３
	店舗等	０	０	０	２	０	５
	その他建物	１１	９	９	３	５	１３
	土地区画整理	２	３	２	３	０	０
	公園造成	０	３	２	１	２	１
	ゴルフ場	０	０	０	０	０	０
	観光開発	１	０	０	０	１	１
	ガス等	０	１	１	１	０	２
	農業関連	２２	２９	３０	２３	３４	２１
	土砂採取	１	０	０	０	０	０
	その他開発	２３	７	２１	１４	１４	８
	自然崩壊	０	０	０	１	０	０
	遺跡地図作成等	０	０	０	０	２	０
	保存目的	０	０	０	０	０	６
	確認試掘	０	４	０	０	０	０
	遺跡整備	１２	２	３	２	１	０
学術研究		０	０	０	２	６	７
合計		１３３	１０８	９８	７９	１１５	９０

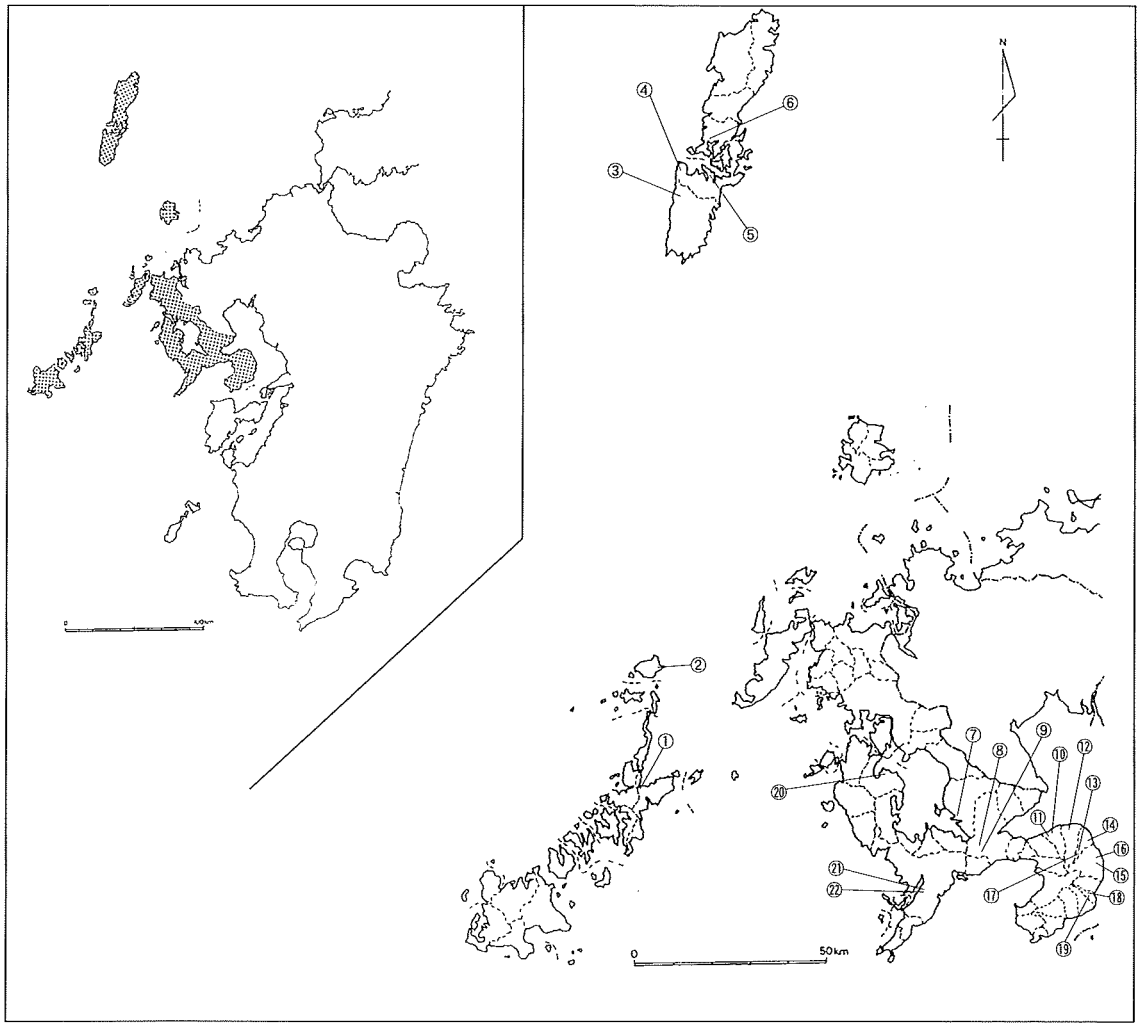
平成7年度から平成12年度にかけての県市町村別職員数の推移

	平成７年度		平成８年度		平成９年度		平成１０年度		平成１１年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	16(3)	32(5)	16(3)	34(5)	17(3)	34(10)	17(3)	33(11)	16(5)	36(6)

	平成１２年度	
区分	県	市町村
職員数	17(7)	42(4)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成12年度長崎県内発掘調査箇所

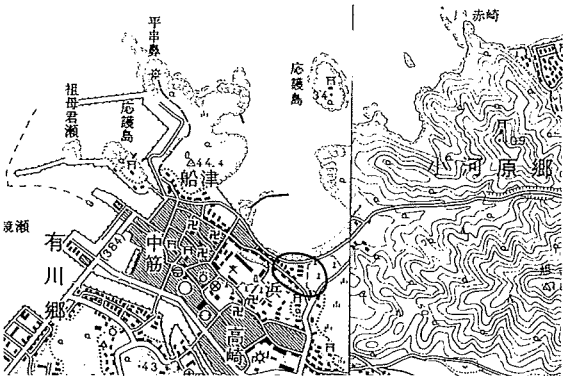
①浜遺跡	（有川町）	⑨小栗Ｃ地点遺跡	（諫早市）	⑰礫石原遺跡	（島原市）
②長崎鼻遺跡	（宇久町）	⑩桑田遺跡	（瑞穂町）	⑱飯野遺跡	（布津町）
③雷命神社下遺跡	（厳原町）	⑪鍵峰城跡	（瑞穂町）	⑲木場原遺跡	（布津町）
④水崎（仮宿）遺跡	（美津島町）	⑫多比良馬場遺跡	（国見町）	⑳白崎遺跡	（西彼町）
⑤金田城跡	（美津島町）	⑬東鷹野遺跡	（有明町）	㉑栄町遺跡	（長崎市）
⑥家ノ隈遺跡	（豊玉町）	⑭一野遺跡	（有明町）	㉒合戦場遺跡	（長崎市）
⑦玖島城跡	（大村市）	⑮森岳城跡	（島原市）		
⑧諫早農業高校遺跡	（諫早市）	⑯稗田原遺跡	（島原市）		

①浜（はま）遺跡

所 在 地	南松浦郡有川町有川郷213番2	**調査主体**	有川町教育委員会
調査原因	学校給食センター新設事業	**調査面積**	36㎡
調査期間	平成12年10月16日～10月19日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	慎重工事

立　地

浜遺跡は，内湾の奥まった場所に位置し，有川中学校が建設されている台地裾の砂丘上に立地する。昭和42年～44年に長崎大・九州大・別府大が合同調査したところ，60体余りもの人骨が土壙墓・箱式石棺墓・甕棺墓等の内部や集骨葬として出土した。副葬品も出土し，装飾品として貝製の腕輪や指輪，貝製・骨製の垂飾品や玉製品などが確認されている。供献された土器・石器や甕棺の形態から，弥生時代前期～中期にかけて営まれた墳墓遺跡であることが判っている。また，台地上には縄文時代～弥生時代の上原遺跡が立地し，本遺跡との関連も考えられている。



浜遺跡位置図［有川・友住］（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査は，学校給食センター新設工事に伴うもので，建設予定地である墳墓が確認された場所の東側に位置する標高が9m前後の砂丘上で行った。目的は墳墓域の範囲確認を行うことであった。

試掘壙は工事予定範囲内に5箇所設定した。土質はすべて砂質で，海岸からの供給による。層位は7層まで確認しており6層を境に土の硬さが異なっている。遺物は4・5層からのみ近世以降の陶磁器が出土し，他には自然遺物として獣骨が出土するくらいである。遺物の出土が特定の試掘壙に偏在していること，遺構を伴わないこと，すべて砕片であること，また5層以上の層位が下層のとは土の硬さが違う点など近世以降に，これらの付近を人為的に埋め立てたものと考えられている。遺構も，人為的なものは確認されていない。

まとめ

調査目的は，弥生時代の墳墓群の範囲確認であったが，この時代の遺物は全く確認できず，出土した近世の遺物も埋め立てた際の混入と考えられる。調査地点は強風が吹き付け砂の供給が多く，弥生時代の包含層まで達しなかったことも考えられるが，安全面を考慮して岩盤まで掘り下げることができなかった。よって，工事の時に再度立会調査を指示して収束した。

［調査担当：大浦雅宏・高原愛］（文責：村川）

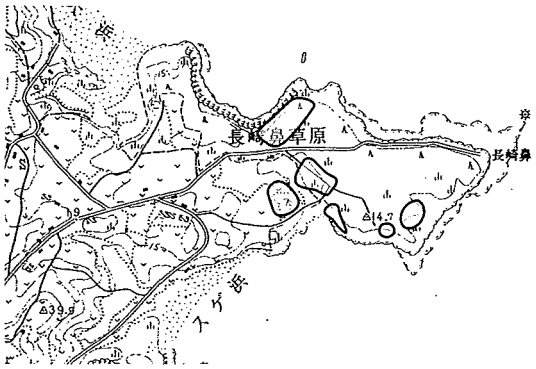
浜遺跡遠景

②長崎鼻遺跡（ながさきばな）

所 在 地	北松浦郡宇久町大字長崎鼻	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	96㎡
調査期間	平成12年7月24日～8月9日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成13年3月刊行	**処　　置**	調査後保存

調査概要

長崎鼻遺跡は以前より多くの遺物が採集されており，長崎県遺跡地図の中ではＡ～Ｆの6遺跡と積石塚2基に細分され掲載されている。この内，長崎鼻Ｂ・Ｃ・Ｅ・Ｆ遺跡の調査をおこなった。長崎鼻Ｂ遺跡は過去に中世の小規模な貝塚が確認されていたが，貝塚が存在したとされる部分はすでに削平されていたため，その上の丘陵上に調査区を設定した。結果，表土下１ｍ以上が再堆積であることが判明し，その下の層から数点の縄文土器片・石器が出土した。遺物の出土は希薄であったが，この周辺に密集した地域があるものと考えられる。Ｃ遺跡は砂丘下に埋もれた集積が露出した状態が以前より知られていたことから，周辺に調査区を設定したが，遺物等は確認できなかった。風の作用により包含層も消滅したものと考えられる。Ｅ遺跡からは坂の下式土器・打製石斧・鎌崎型スクレイパーなど多くの遺物が出土した。特に浜石を集積した遺構が検出され，一帯に良好な包含層を残していることが理解できる状況にあった。Ｆ遺跡には2×5mのトレンチと2×2mのグリッド，積石塚Ａの近辺に2×2mのグリッドを設定したがいずれも表土下は岩盤であり，遺物の確認はできなかった。

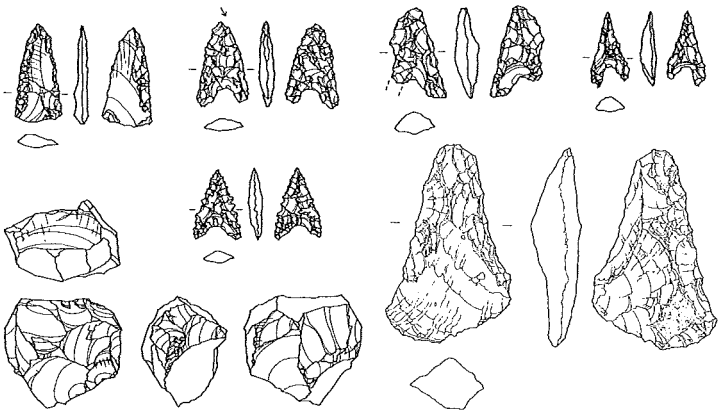


長崎鼻遺跡位置図［宇久島］（S＝1/25,000）

まとめ

長崎鼻遺跡一帯は砂の供給とその移動が激しく，地形そのものも日々大きく変化している。そのため包含層が露出したり，砂が厚く堆積するなど地点によって状況も大きく異なることが理解できた。その中でも今回の調査により，Ｅ遺跡周辺は縄文後期初頭の良好な包含層が残存することを確認したことは，大きな成果であった。今後は，広大な遺跡のより具体的な範囲を確認する必要があろう。

［調査担当：福田・高原］（文責：福田）

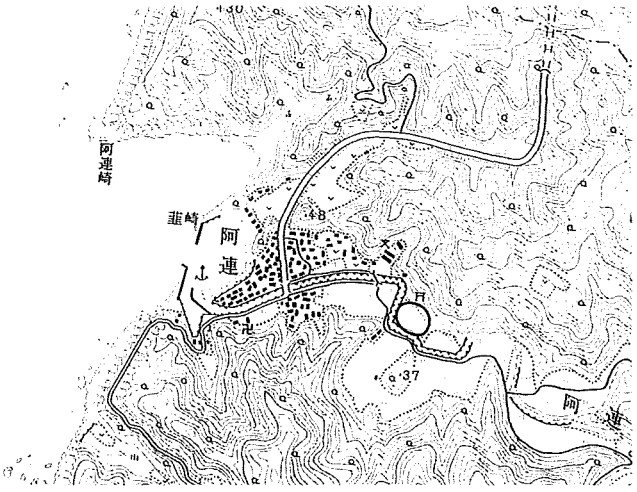

出土石器

③雷命神社下遺跡（いかずちのみことじんじゃした）

所 在 地	下県郡厳原町阿連	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	河川改修	**調査面積**	26㎡
調査期間	平成12年10月16日～10月27日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	未買収地区の調査後工事

立地および環境

東流する阿連川右岸にあたり，標高は3～4mを測る。式内社である雷命神社前面の水田・畑地にあたり，旧河道を一部で含んでいる。海岸線ははるか東にあるが，満潮時には潮が遺跡地付近まで遡るため，旧地形は深く湾入する地形が形づくられていたものと思われる。遺跡内部を走る現流路は江戸後期に改修されており，旧流路は蛇行しながら遺跡地付近で海に接していたものと思われる。



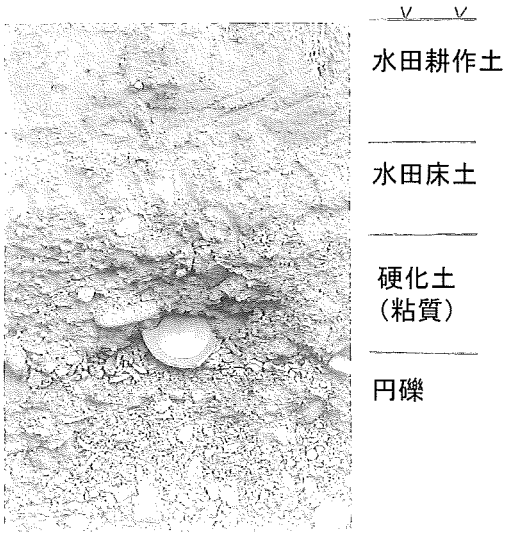
雷命神社下遺跡位置図［阿連］(S=1/25,000)

周辺には弥生時代の墳墓遺跡である阿連瀬戸原（あれせとばる）遺跡やセトバル古墳が位置している。阿連瀬戸原遺跡では箱式石棺が出土し，周辺から銅矛2本が埋納されていた様子も伝えられている。この他にも周辺には，銅矛を出土したと伝える雷命神社など弥生時代の墳墓・埋納関連遺跡があり，古墳も分布している。湾入する地形を考慮すると，当遺跡が立地するような河川際の小平地に集落関連遺跡の存在が想定できる。また，すこし上流に遡ると箱式石棺が出土したと伝える畑地があり，中流から下流一帯にかけて，弥生時代を中心とした遺跡が集中しているものと思われる。

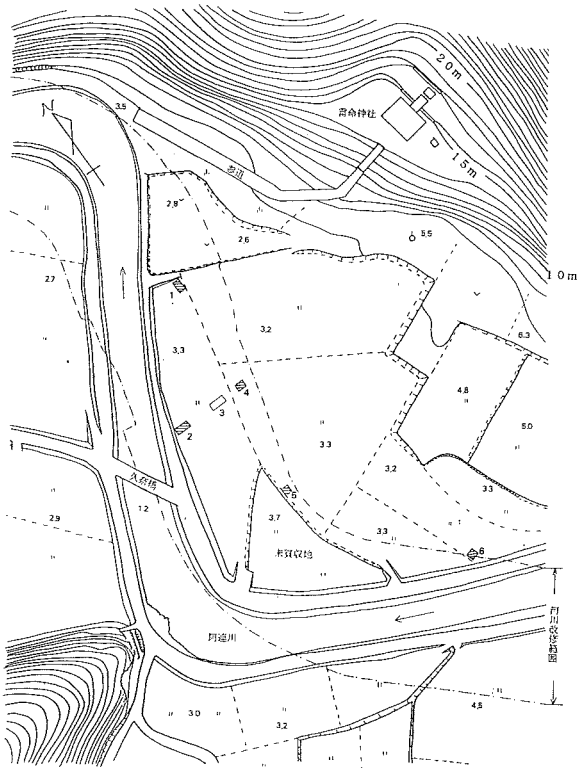
また，式内社である雷命神社の起源探求も興味のあるテーマであり，7世紀から8世紀にかけての朝鮮半島の混乱に際して，対馬西海岸の情勢を把握することは対馬の地形と対外交渉を考える上でも重要な位置を占めるものと思われる。

調査

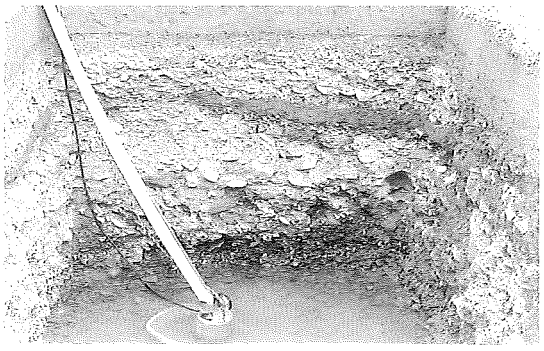
河川改修幅部分は畑地区画や地形の状況から，旧流路内であることが予想された。そのなかでも旧地形の復元と遺構の有無の確認を目的として，6箇所の試掘坑を設定した。調査地はすべて水田として利用されており，現地表面から約50cmほどを水田耕作土と床土が占め，その下には堅く引き締まった礫混じりの粘質土層がある。この粘質土層まで



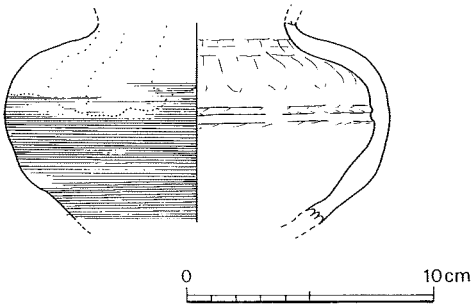
第６試掘坑南壁土層（近世陶磁器）



調査地点周辺地形図（S=1/2000）



第２試掘坑東壁堆積状況



第５試掘坑出土須恵器壺（S=１/3）

は近代の水田造成に伴い人的撹乱を受けているものと思われた。その下の円礫層は明らかに川砂利で，およそ1.7m以上の堆積が観察され，その下は青灰色の粘土層となる。この粘土層が河川流路では岩盤となる。第5試掘坑を除いたすべての試掘坑において，上記のような層位を確認できた。

出土遺物は円礫層を中心に出土しており，円礫層の下部からも摩滅の激しい近世陶磁器片の出土が見られる。蛇行する阿連川によって円礫層は何度も上下しているものと思われる。以上のように近世の流路変更と阿連川の氾濫によって調査対象範囲の大部分の遺跡は削平されている様子である。

ただし，未買収地北の第5試掘坑では円礫層と水田客土の間に黒褐色土層が確認され，摩滅のみられない須恵器壺片がまとまった状態で出土している。この未買収地に良好な包含層が残る可能性があり，今後の調査が必要である。

まとめ

掲載した須恵器壺は自然釉（しぜんゆう）が上半にかかるものの，ほぼ全体にカキ目を施している。また，やや肩の張る壺型を呈している。焼成による焼きぶくれが2～3確認され，比較的薄手の器壁で，丁寧なつくりである。類似する壺は同町矢立山古墳からの出土（平成12年度厳原町史跡整備調査）が確認され，対馬では他に美津島町簑島遺跡で確認されている。ここでは6世紀後半代から7世紀代にかけての年代を想定しておきたい。他に図示はできなかったが，玄界灘式製塩土器の胴部と思われる平行叩き痕（こん）のみられる土師片も出土している。奈良時代関連の遺物が出土しており，式内社の存在もあり歴史的に注目される地域である。

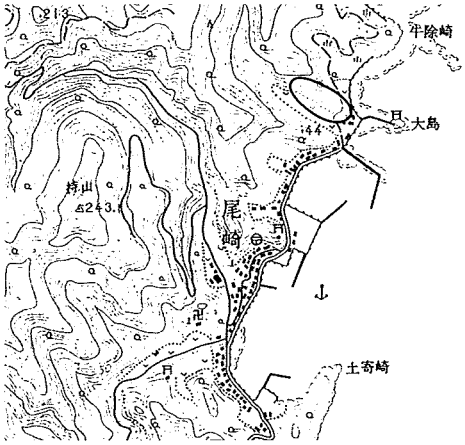
［調査担当・協力：竹中・尾上博一（厳原町教育委員会）］　（文責：竹中）

④水崎（仮宿）遺跡

所 在 地	下県郡美津島町大字尾崎字仮宿	**調査主体**	美津島町文化財保護協会
調査原因	緊急雇用促進事業	**調査面積**	200㎡
調査期間	平成12年11月6日～平成12年12月21日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年3月刊行	**処　　置**	調査後保存

概　要

水崎（仮宿）遺跡は，15世紀後半に記された『海東諸国紀』にも記載されている地名で，当時200戸ほどの家があったとされる場所である。遺跡は以前試掘調査がおこなわれており，多数の朝鮮王朝陶磁器や東南アジア産の陶磁器などが出土したことで知られていた。このことから中世の重要な遺跡として認識され，平成12年に緊急雇用促進事業により，美津島町の文化財保護協会を主体とし，遺跡の内容を確認することを目的に調査がおこなわれた。



水崎（仮宿）遺跡位置図［阿連］（S＝1/25,000）

調　査

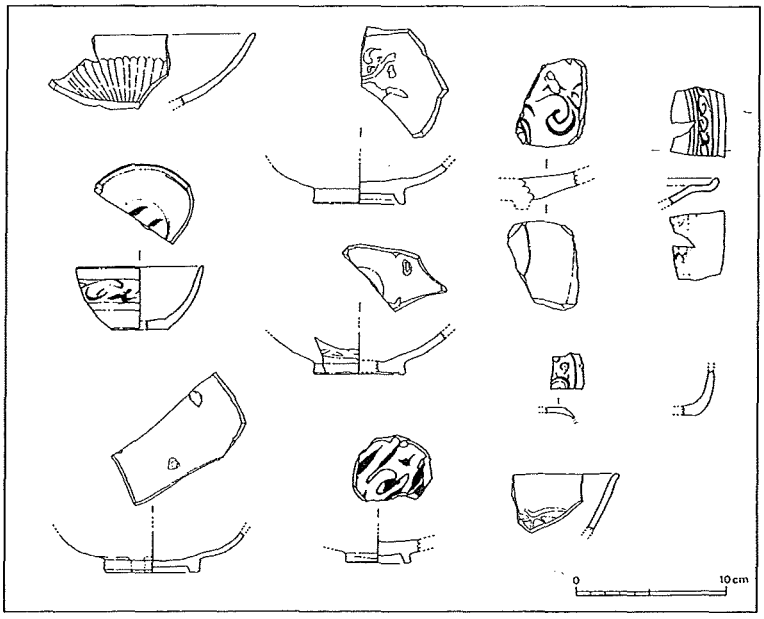
調査区は，以前の調査結果をふまえて近くに10m×20mの調査区を設定した。上層に近世の遺構と思われる掘建柱遺構が検出され，鯨の骨などが出土することから，近世の鯨組の建物遺構と判断した。下層にも多くのピット群が検出され，その遺物からほぼ14世紀後半から15世紀前半の遺構と判断された。下層の遺物は中国産陶磁器・朝鮮産陶磁器・東南アジア産陶磁器など国際色豊かな遺物が多数出土し，この地が朝鮮半島のみならず，中国や東南アジアとの交易港であることが判明した。陶磁器のほかにも石帯・鉄製品・銭貨など当時の生活を彷彿とさせる遺物が多数出土している。

今回の調査で，この遺跡の朝鮮王朝陶磁の出土率が，本土側の朝鮮王朝陶磁の出土率をはるかに上回ることが確認され，中世における対馬と朝鮮半島との交易が積極的におこなわれていたことが遺物から示された。一方，本土側との食器構成も大きく変化していることも調査の結果確認できた。

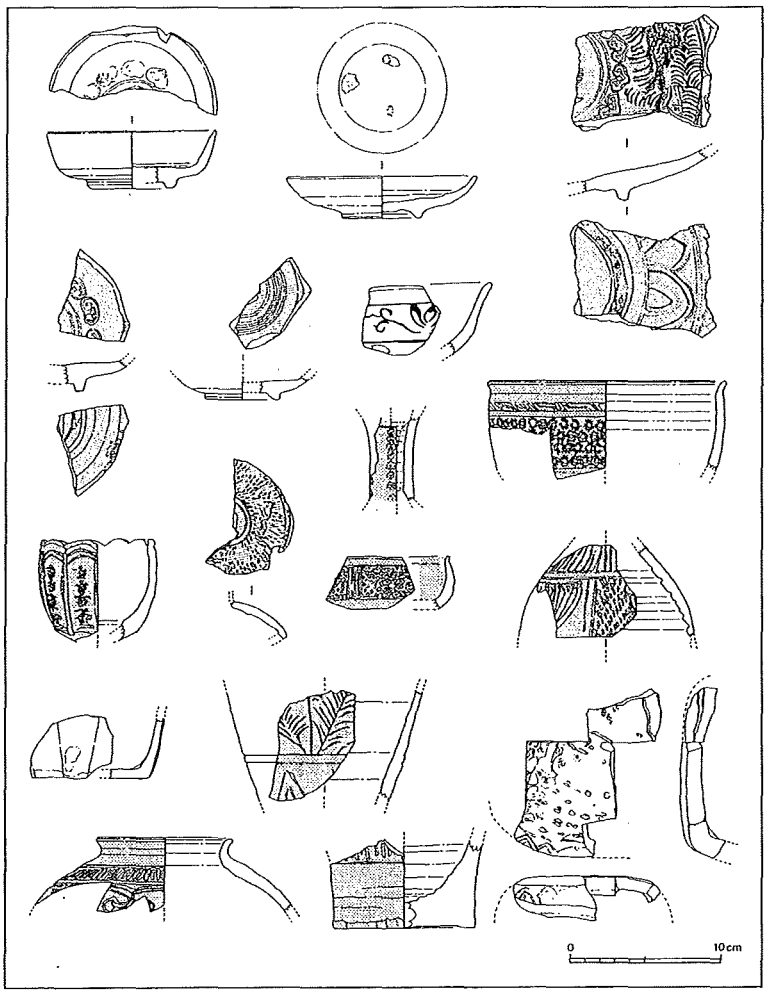
まとめ

調査の結果，大量の舶載陶磁器が出土し，国産陶器を上回るものであった。このことはこの地が貿易港であったことを示唆するものと考えられる。従って，確認されたピット群は倉庫的なものであった可能性が高いものと考えられる。このことを裏付けるためにも，他の中世遺跡との比較検討が必要となる。

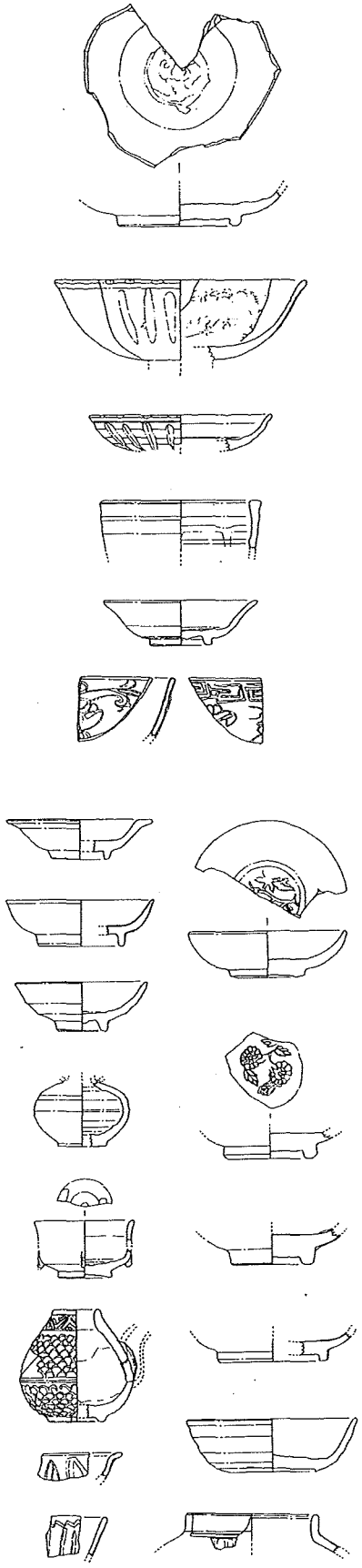
［調査担当：田中・福田］（文責：福田）



ベトナム・タイ産磁器



朝鮮王朝陶磁



竜泉窯系

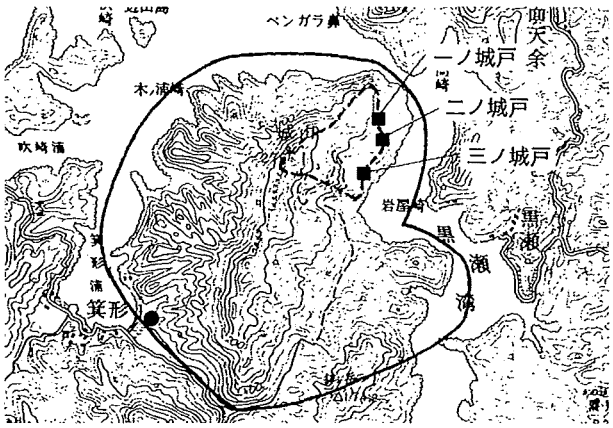
出土遺物

⑤金田城跡（かねだじょうあと）

所 在 地	下県郡美津島町字箕方ほか	**調査主体**	美津島町教育委員会
調査原因	史跡整備	**調査面積**	150㎡
調査期間	平成12年9月11日～10月21日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成14年3月刊行予定	**処　　置**	現状保存

立　地

金田城は浅茅湾（あそうわん）に突きだした小半島である通称城山（標高276m）に立地する。三方を海で囲まれた天然の要害である。この城山を取り囲むように石塁がまわる。石塁の総延長は2.86kmである。国特別史跡金田城の整備に伴う発掘調査は平成5年に始まり，今年で8年目を迎えた。



金田城跡位置図［阿連］（S=1/50,000）

調　査

今年度は，金田城の南東に所在する字名「蔵ノ内」の調査をおこなった。字名に「蔵」という字が含まれていることから，古代の遺構の検出が期待された。蔵ノ内は黒瀬湾の西に面し，海岸から約1kmほど奥まった距離にある。谷底地形で谷の南北には，目の前まで丘陵が迫る。海岸からは湿地帯が広がり，アシやススキなどが繁茂している。

今回の調査地は城山の登山道入り口に近く，水路を挟んで約2,000㎡ほどの平坦部が存在する。旧軍隊の兵舎跡や厨房跡，井戸跡が残っている。

調査は16箇所のトレンチを設定しておこなった。その結果，水路の北側は旧軍隊による客土が厚く堆積しており，大幅な地形改変がおこなわれたことが判明した。また，客土の下には有機物を含んだ層が堆積しており，客土前の旧地形と判断された。しかし金田城に関連した遺構や遺物は出土しなかった。

なお，水路の南側の第11試掘坑からは，弥生後期後半の溝状遺構および集石遺構が出土した。しかし金田城に関連した遺構・遺物の出土はなかった。

［調査担当：古門・田中（美津島町教育委員会）］

（文責：古門）

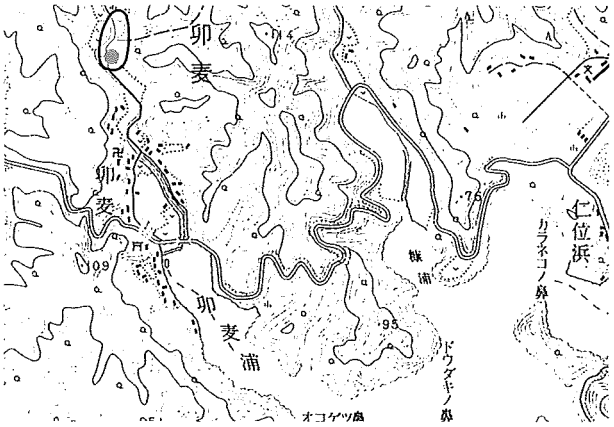
金田城蔵ノ内の溝状遺構

⑥家ノ隈遺跡

所 在 地	下県郡豊玉町卯麦字家ノ隈	**調査主体**	豊玉町教育委員会
調査原因	農道拡幅	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成13年3月5日～3月8日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

対馬では奥行きの深い谷が多く，そこを狭小な河川が流れている。小河川の両岸には細長い可耕地ができる。このような谷地形を対馬では「隈」とよぶが，家ノ隈も卯麦川流域に広がる谷底低地である。



家ノ隈遺跡位置図［仁位］（S=1/25,000）

調　査

調査は平成10年度の公共工事を伴う分布調査によって，農道の拡幅工事にともない県文化課より試掘調査が必要な旨の通知を対馬支庁におこなったことによって予定されたものである。調査は豊玉町が主体となり，美津島町に協力依頼をおこなう形で実施された。調査日時は3月5日（月）から8日（木）であった。

遺跡は中世の散布地で周知されている。現地の標高は7mほどである。

調査は農道拡幅部分に1m×3mの試掘坑を8箇所設定して実施した。第3および第4試掘坑からピット（柱穴）が検出されたが，近世のものと思われた。出土遺物はわずかで，近世のものを中心とする。

遺物は古墳時代の須恵器や中世の貿易陶磁器片も出土しているが，点数が1，2点ときわめて少ない。河口に近い第1試掘坑では下層に水成堆積の層が確認され，中世以前はしばしば一帯が冠水するような状況があったことがうかがえた。現在は畑として利用されているが，土層の堆積状況から判断すると，可耕地となったのは近世以降ではないかと判断された。

まとめ

出土した古墳・中世の遺物は流れ込みと考えられるが，調査区の隣接地には標高15mの舌状丘陵があり先端部に円形の基壇をもった小祠があるので，当地が古くから神聖地とされていた可能性も考えられる。

［調査担当：古門・田中（美津島町教育委員会）・宮脇（豊玉町教育委員会）］（文責：古門）

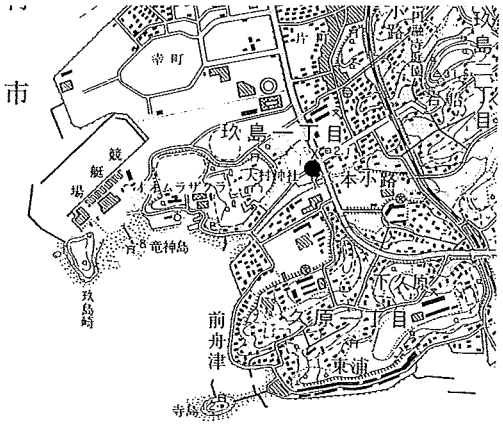
家ノ隈遺跡近景

⑦玖島城跡（くしまじょうあと）

所 在 地	大村市玖島，久原	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国道拡幅	**調査面積**	2,500㎡
調査期間	平成12年7月17日～平成13年3月9日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年度刊行予定	**処　　置**	調査終了後工事

調査経緯

玖島城は，大村喜前が慶長四年（1599）に築いたとされる平山城である。幕末まで大村氏代々の居城として使用され，近世大村藩の本拠地であった。今回の調査は，国道拡幅に伴い平成12年度に引き続き行われたものである。調査対象区域は，大村公園から旧大村市立体育館跡地で，役所や家臣の屋敷跡に相当する。



玖島城跡位置図［大村］（S＝1/25,000）

調　査

調査によって調査区北側の大村公園内において，慶長期の築城頃のものと考えられる建物跡と石垣が確認された。また，玖島川の北側の調査区において江戸後期の建物遺構が確認され，極めて珍しい「長与三彩」が出土した。そのほか，調査区の北側において，縄文時代の貯蔵穴が確認されたほか，水面下のふたつの貝層から縄文土器が出土した。また，調査区の南側において平安時代のピットから黒色土器が出土した。

まとめ

今回の調査によって，玖島城の築城期の豊富な資料を得ることができた。これらは遺構，遺物のどちらにおいても大変貴重な資料であり，今後文献資料などとの比較において，基本的な資料になるものと考えられる。また，江戸後期において，「長与三彩」などの興味深い資料が出土したことは，その製品としての性格を考える上で，貴重な資料といえるであろう。

そのほか，縄文時代の貝層の時期や出土土器からは，当該期の大村湾の海水面の変化を考える上では，良好な資料といえる。また，平安時代の遺構や遺物は，資料の少ない本土部における古代の資料として，貴重な資料といえるであろう。

［調査担当：福田・川口・東・中村・高原・松崎］（文責：川口）

石垣調査風景

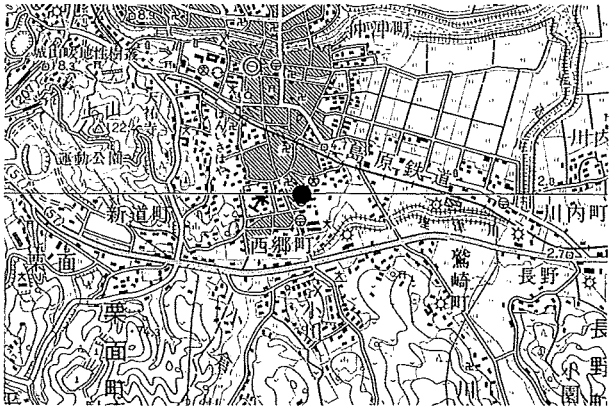
⑧諫早農業高校遺跡

所 在 地	諫早市船越町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	草花温室改築実習地整備	**調査面積**	18㎡
調査期間	平成12年9月19日～9月22日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

当該地は埋津川中流域のなだらかな台地上に立地する。現在は校舎や校庭等に造成されているが，明治39年学校新設時に弥生時代の甕棺・細形銅剣が出土したと言われている。当該地周辺には古代・中世の水田跡である田井原条里跡や西郷・龍造寺氏が利用した沖城跡が存在する。

今回，当該地は事業内容が周知遺跡に隣接しており，遺跡範囲確認のため調査を行った。



諫早農業高校遺跡位置図［諫早］（S=1/50,000）

調　査

結果，攪乱により遺構等は検出されなかったが，部分的に中世の輸入陶磁器を含む遺物包含層は確認された。周知では弥生時代とされていたが，調査地点は中世を中心とした遺物包含地であった。工事は遺物包含層にかかる可能性があるため，工事立会の必要性を連絡した。

［調査担当：大浦・高原］（文責：東）

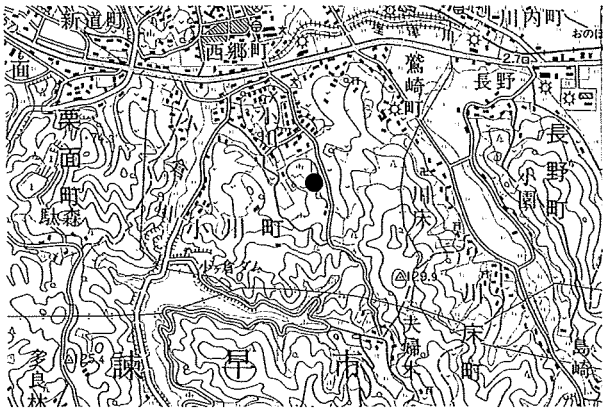
諫早農業高校遺跡調査風景

⑨小栗（おぐり）Ｃ地点（ちてん）遺跡

所 在 地	諫早市小川町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	用地売却	**調査面積**	44㎡
調査期間	平成12年12月4日～12月11日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

遺跡は諫早農業高校の用地で旧茶園である。調査区は小栗Ｃ地点遺跡の北東端にあたり，現地は急斜面となっている。標高は約30～50ｍを測る。茶園はすでに3年前から使用されていないため，現在は雑草等が繁茂する状況である。



小栗Ｃ地点遺跡位置図［諫早南部］（S=1/50,000）

調　査・まとめ

調査区の南・北側からは遺物が表面採集されており，本来この地域には広範囲にわたり，遺跡が存在していた可能性も考えられる。しかし調査区からは遺構および遺物包含層は確認されなかった。したがって，工事等には支障がないものと判断した。

［調査担当：大浦・東］（文責：東）

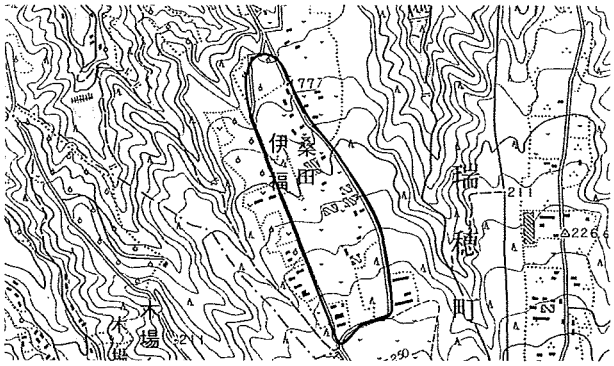
小栗Ｃ地点遺跡調査風景

⑩桑田遺跡

所 在 地	南高来郡瑞穂町高田名桑田開拓地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	道路改良工事	**調査面積**	72㎡
調査期間	平成12年11月6日～11月17日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	未定	**処　　置**	調査後工事

立　地

遺跡は島原半島の北部・吾妻岳から派生した火山性扇状地の扇央部，標高200m付近に位置する。吾妻町との町境に近いこの一帯は，昭和35年に農林省による雲仙馬鈴薯原々種農場開設以降，年々開削が進み，桑田開拓地からは多くの縄文～弥生時代にかけての土器・石器類が出土したといわれる。



桑田遺跡位置図［愛野］（S=1/25,000）

調　査

遺跡の中央を南北に縦断する県道拡幅のため，工事総延長約1,000mの中に2m四方の試掘坑を18箇所設定し，範囲確認調査を実施した。

基本層序は6層に分けられる。第1層は暗褐色土層，第2層は黄褐色土層，第3層は黒褐色土層，第4層は暗灰褐色土層，第5層は黒灰褐色土層，第6層は含礫黄灰褐色粘質土層である。

本遺跡に隣接する瑞穂町西原遺跡や吾妻町弘法原遺跡の調査事例では，第2～第3層にかけて縄文時代の遺物が確認されている。しかしながら，今回の調査では同様の土層はあるものの遺物は全く含まれておらず，遺物包含層と認定するには至らなかった。

過去には遺物の発見があったと聞くが，県道拡幅予定地の南端は植林のため，また北端では宅地や牛舎造成により削平が及んでいることが判明した。調査では遺物は全く出土せず，周辺でも遺物等の散布は見られなかった。

まとめ

本遺跡の周知範囲はかなり広大で，遺跡の中心部分がどこにあるか不明であるものの，県道よりやや西側にある雲仙コロニー牧場付近の小河川流域を候補としてあげておきたい。

［調査担当：本田・山口・田中］（文責：本田）

桑田遺跡土層

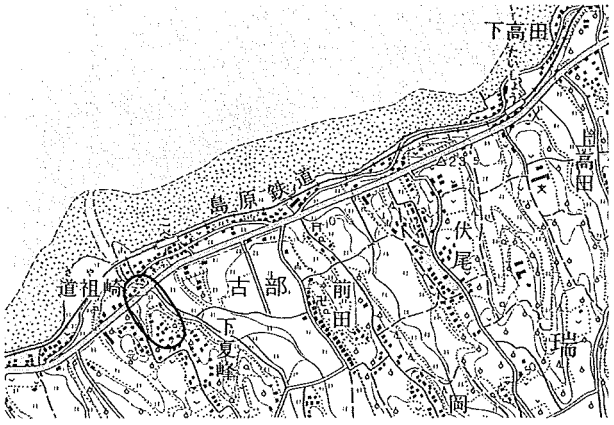
⑪鍵峰城跡（かぎみねじょうあと）

所 在 地	南高来郡瑞穂町字鍵峰	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	道路改良工事	**調査面積**	21㎡
調査期間	平成13年2月26日～3月2日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	未刊	**処　　置**	調査後工事

立　地

遺跡は島原半島の北部，標高869.8mの吾妻岳から派生した舌状低丘陵の先端部に位置する。鍵峰城跡のある丘陵は国道251号線により分断され，道路北側は独立丘陵化していたが，それも喫茶店やスーパー等の建設により大部分が削平されている。

本遺跡はこれまでも前述の開発行為等に伴って調査が行われており，城の遺構は不明ながら弥生時代のＶ字溝が確認されている。平成８年にはスーパーの駐車場造成工事に伴い確認調査を県文化課で実施したが，遺構等の検出はなかった。



鍵峰城跡位置図［湯江］（S=1/25,000）

調　査

今回調査に至った原因は，国道251号線の道路拡幅により，本遺跡の所在する丘陵を幅6m前後掘削する必要が生じたことによる。遺跡の立地する丘陵は宅地や果樹園として利用されているせいか，頂部の大半が削平されており，調査は比較的旧地形をとどめる東側を中心に，3m× 1.5mの試掘坑を2箇所，2m× 1.5mの試掘坑を3箇所設けて実施した。

基本土層は黒茶褐色の表土と明茶褐色粘質土の地山の2層に大別できた。明確な遺物包含層は存在しないことから，岩盤まで削平が及んでいたと考えられる。現地表から地山もしくは岩盤までの深度は40～50cmほどであった。

遺構は3つの試掘坑で確認できた。いずれも地山もしくは岩盤を掘り込んだピットである。うち1つのピットでは炭化物の混在する覆土の中から土師質羽釜と瓦質火鉢が重なった状態で出土した。遺構の性格は不明だが，日常生活に関わるものであろうか。

鍵峰城跡遺構検出状況

出土遺物の大半は表土からで，遺構に伴うものは前述したもの以外はない。主な遺物としては白磁碗（Ⅷ類）や白磁皿（Ⅸ類），東播系擂鉢，

李朝青磁，土師質土器，瓦質土器等がある。時期的には白磁が12世紀後半代に，その他は16世紀後半以降に概ね比定される。

また，弥生中期の土器片も出土しており，過去の調査でV字溝が確認されていることを考え合わせると，弥生時代から平安後期，戦国時代にわたって遺跡が営まれていたといえる。

本遺跡が城として機能していたのは16世紀後半代と思われ，3つの試掘坑でみられた遺構も当該期のものと考えるのが妥当であろう。

遺物出土状況

まとめ

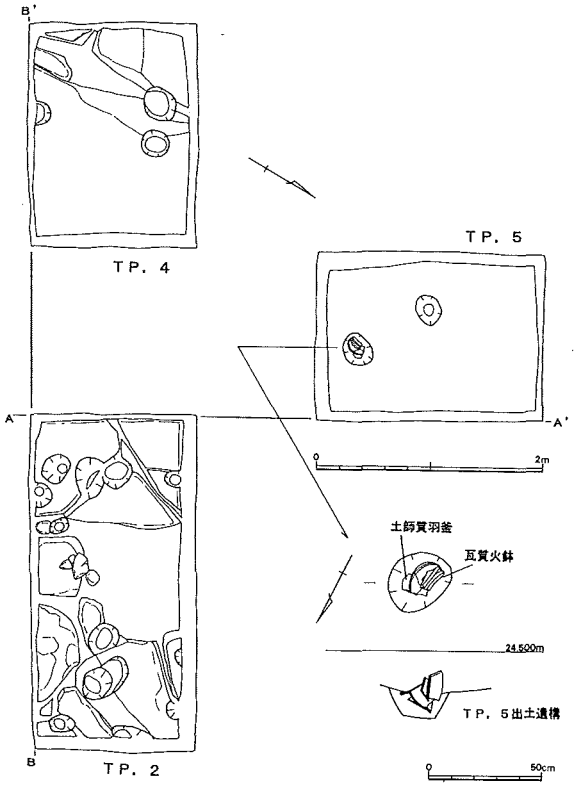
鍵峰城は『日本城郭体系』によると，神代貴茂の家臣で鍵峰七郎の居城といわれている。しかしながら，その正確な所在地については諸説有り，定まっていないのが現状である。

県の遺跡地図や包蔵地カードでは当該地を鍵峰城跡にあてているが，瑞穂町教育委員会では本丘陵の東北東側，島原鉄道古部駅の南側丘陵に所在するものと考え，本遺跡については「鍵峰城」ではなく「宿城」であるとの見解を示している。

ただし，「宿城」についても城主や由来等文献的に知られず，「道祖崎ニ古城アリ」との伝承が残っているにすぎない。ここでは従来通り「鍵峰城」として取り扱ったが，今後は「宿城跡」への名称変更を含めて再度検討すべきであろう。

調査区東側の数箇所で遺構が確認されたが，現況からすると南西方向に広がる可能性が強い。よって工事範囲内に遺構が残存することはないと判断され，慎重工事を指示するのが妥当と思われる。

［調査担当：本田］（文責：本田）



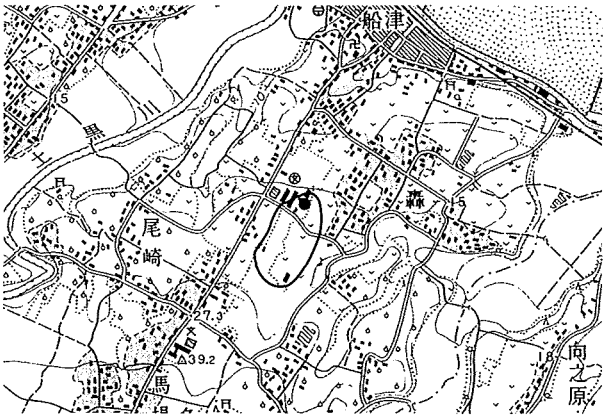
遺構実測図（S=1/60, S=1/30）

⑫多比良馬場遺跡（たいらばば）

所 在 地	南高来郡国見町多比良甲1020	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国見高等学校武道館改築工事	**調査面積**	12㎡
調査期間	平成12年9月11日～9月14日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

多比良馬場遺跡は島原半島扇端部多比良川河口付近に形成された，標高20mほどの平地に位置し，弥生時代の遺物包含地として周知されている。



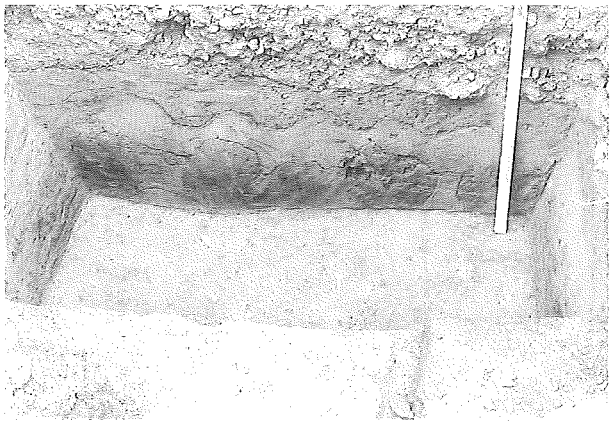
多比良馬場遺跡位置図［多比良］（S=1/25,000）

調　査

遺跡の隣接地にあたる県立国見高校が武道館を改築するにあたり，平成12年5月に分布調査を行った結果，高校付近の畑地で弥生土器などの遺物を採取した。遺跡の連続性，関連性も考えられることから範囲確認調査を行った。調査は，旧武道館跡地のうち改築工事計画区域に，2m×2mの試掘抗3ヶ所を設け，計12㎡を調査した。土層は，最上層が攪乱層で，コンクリートと客土がまじる。旧武道館を取り壊したのち整地した際の痕跡と思われる。第1層は茶色火山灰質土層，第2層は1層よりやや黄色みを帯びた，茶黄色火山灰質土である。1層・2層とも旧耕作土で，それに続く第3層は黒色火山灰質土層，第４層は黄土色の地山に至る。ＴＰ１は攪乱層が厚く，遺構は確認できなかった。ＴＰ2の東壁に第3層が入り込んでいる部分，また，ＴＰ3で窪み状の穴が発見されたが，明確な掘り込みではなく人為的なものとは思われない。遺物としては，ＴＰ2・ＴＰ3の第3層からは土師器・須恵器など古代の土器片や，縄文時代の土器片が少量出土した。

まとめ

調査の結果，試掘抗から縄文時代と古代の遺物が出土した。したがって，遺跡は従来推測されていた範囲の北東側に拡がることとなり，遺跡範囲を変更した。したがって，今後，国見高校の校舎を含む敷地内で工事等が行われる場合，取り扱いには注意を要する。なお，今回の調査では，第3層からの遺物の出土が希薄で，遺構も確認されなかったので，当該工事区域においての工事には支障はない。


ＴＰ１西壁検出状況

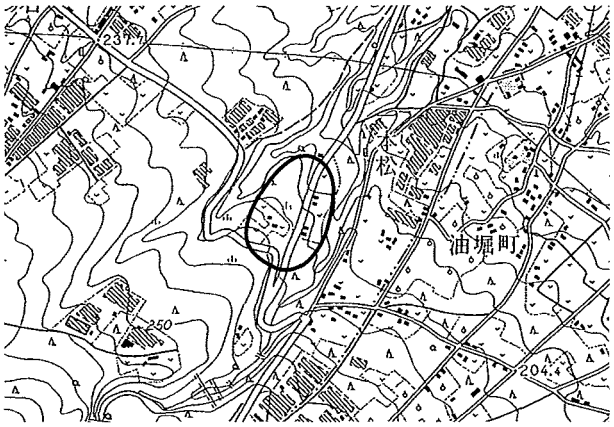
［調査担当：山口・松﨑］（文責：山口）

⑬東鷹野遺跡（ひがしたかの）

所 在 地	南高来郡有明町大三東	**調査主体**	有明町教育委員会
調査原因	砂防ダム建設	**調査面積**	3,600㎡
調査期間	平成12年7月17日～10月12日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成12年度刊行	**処　　置**	調査後工事

立　地

東鷹野遺跡は大きくは雲仙岳の火山性山麓扇状地に立地するが，火山性台地を湯江川が浸食して刻んだ狭小な谷底平野に位置するといえよう。標高は200mである。



東鷹野遺跡位置図［島原］（S=1/25,000）

調　査

東鷹野遺跡は砂防ダムの建設に伴って実施した分布調査によって発見された遺跡である。平成12年5月8日から12日にかけて県教委によって試掘を実施した。縄文時代晩期前半を中心とする包含層とピット群さらに竪穴住居跡と思われる遺構を確認した。

本調査は同年7月から10月にかけて有明町教育委員会が中心となり，県教委が協力するかたちで実施した。当初，竪穴住居跡と思われた遺構は，農地開拓の際の割石廃棄土坑であることが判明した。

包含層から出土する土器は若干の縄文早期押型文土器（おしがたもんどき）があるほかは縄文後期終末（御領式土器）から晩期中葉（黒川式土器）の時期のものである。おびただしいピット群の一部もこの時期に該当しよう。

割石廃棄土坑は大小あわせて14基を確認した。時期は近代から戦後までの期間と考えられる。実際の割石作業に使用された「矢ガネ」が出土し，「矢穴」が残る石塊も確認されるなど，島原半島の農地開拓の歴史をたどる貴重な資料をえた。

まとめ

今回の調査では六ツ木火砕流の実年代値の測定をおこなった。補正値で4150±50BPという年代値をえた。これは縄文時代中期末の時期に該当するようで，この時期に島原半島の人文界にどのような影響を与えたか検討することが今後の課題である。

［調査担当：古門・福田・東・宇土（有明町教育委員会）］（文責：古門）

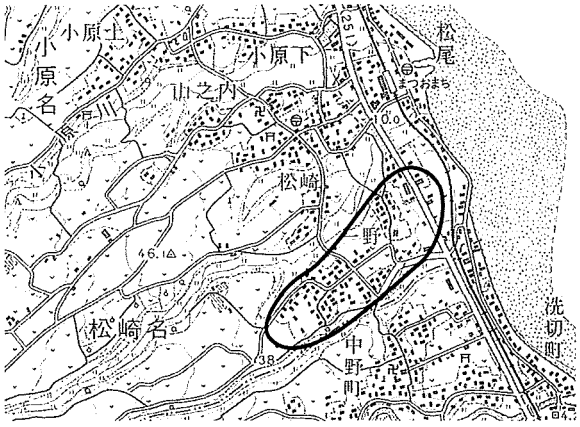
東鷹野遺跡遠景

⑭一野（ひとの）遺跡

所 在 地	南高来郡有明町大三東一野	**調査主体**	有明町教育委員会
調査原因	国庫補助（駐車場・倉庫整備）	**調査面積**	1200㎡
調査期間	平成12年10月24日～平成13年2月2日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年3月刊行	**処　　置**	町有地へ移設保存

立地および環境

島原市との境界線近くに位置し，北を江川，南を金洗川に挟まれた有明海に面する標高10～20mの洪積台地先端部に位置する。国道251号線により二分され，調査地点は台地先端部を中心とする。



一野遺跡位置図［島原］（S=1/25,000）

調査

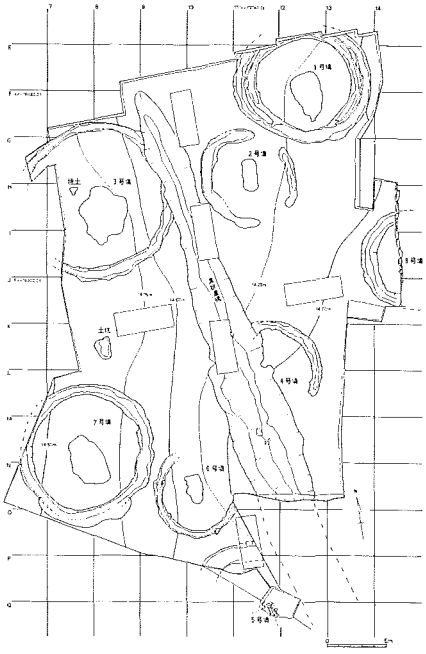
墳丘が削平された古墳8基が検出され，1～4・6・7号墳は円墳であることを確認した。5・8号墳はすでに半分以上が削平されており，全貌をつかむことは出来ない。埋葬施設は1・2・5・6号墳の4基において確認でき，4号墳は古代以降に掘削された大溝により埋葬施設および周溝西半分が失われ，7号墳は埋葬施設の掘方も無惨なほど石材が抜き取られていた。3号墳は石材が堀方東側に寄せられ，掘方と根石痕跡が残り，かろうじて竪穴系横口式石室に復元できた。1号墳も竪穴系横口式石室であったが，根石のみが残存しておりその状態は良好とはいえない。5号墳に至っては崖面に埋葬施設の一部が残存しており，全体的なプランもつかめない状態であったが，その構造は竪穴系の石室で調査区内では最も古い構造をもつ。

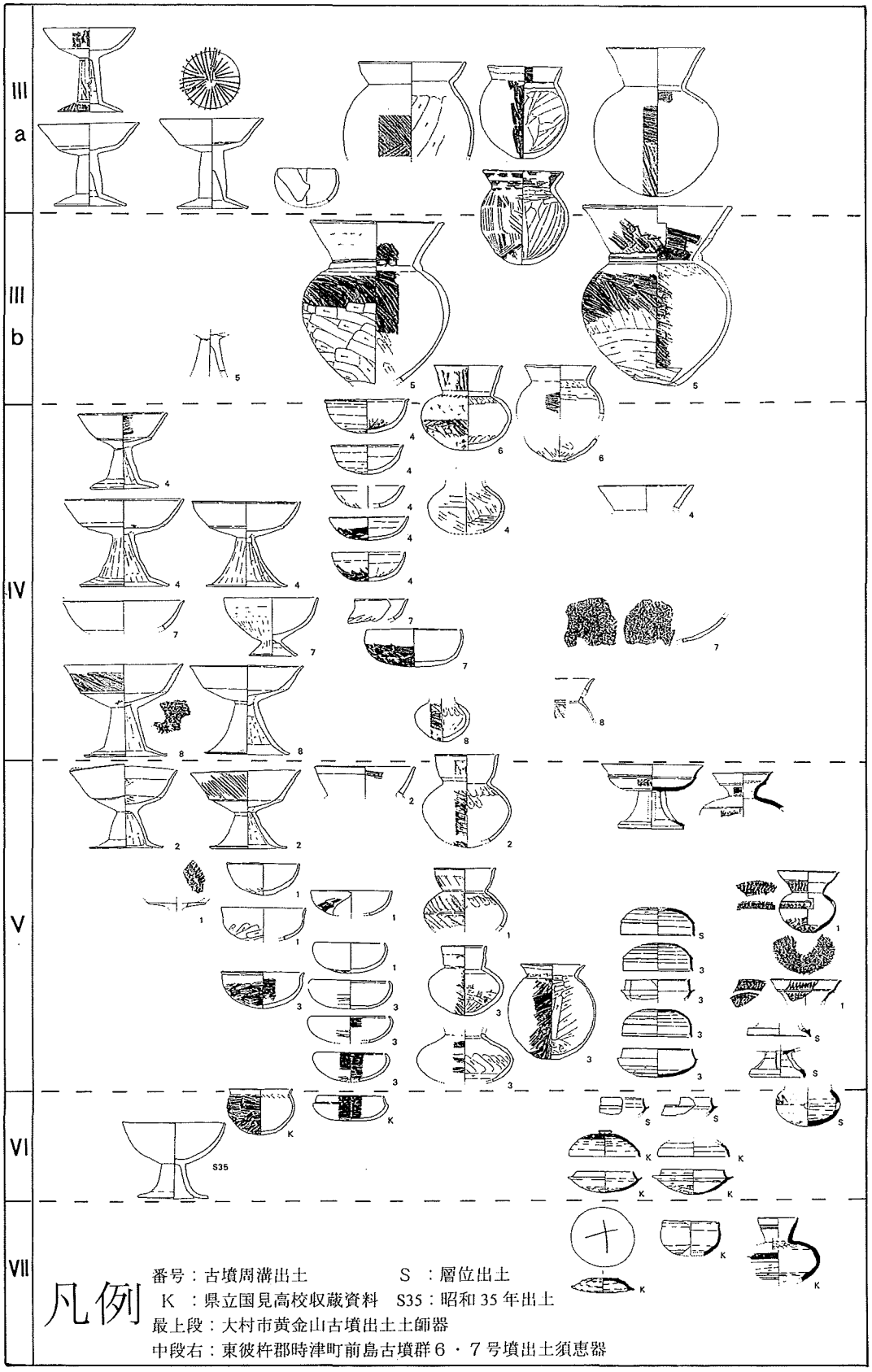
まとめ

周溝内部及び周辺から出土した遺物には，5世紀代を中心とする須恵器と土師器および砥石・鉄製品などがみられた。なかでも須恵器は5世紀後半代のもので貴重な資料である。また，5号墳周溝出土の壺型土器は4世紀後半に遡る特徴をもち，埋葬施設は板石を用いた竪穴式石室である可能性が残る。過去の調査で得られた資料から4世紀後半以降連綿と古墳が築造されており，島原半島でも重要な位置を占めていた豪族の奥津城と思われる。また，一野式や並木式などの縄文土器も出土する複合遺跡である。

参考文献：竹中哲朗「一野古墳群出土土器の編年」西海考古第4号　西海考古同人会　2001年12月

［調査担当・協力：宇土（有明町教育委員会）・竹中］（文責：竹中）


調査区全体図（S=1/600）



一野古墳群出土土器編年表

⑮森岳城跡（もりたけじょうあと）

所 在 地	島原市城内二丁目1130番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	体育館改築	**調査面積**	300㎡
調査期間	平成12年7月3日～9月13日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年度刊行予定	**処　　置**	調査後，工事

立　地

森岳城は島原城ともいい，森岳大権現を祀る霊山であった標高27mの丘にその名は由来する。周囲の地形は島原半島特有の火山性扇状地で，全体になだらかな平地をなす。本城は松倉重政が元和四(1618)年から7年をかけて築城した平城で，以後，約250年間にわたり島原藩の政治の中枢であった。

調　査

発掘調査は島原高校の体育館と同窓会館建設に伴うもので，昨年度からの継続事業である。

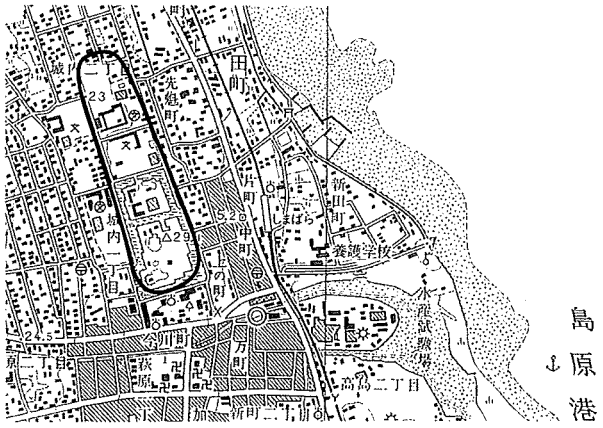
調査地点は森岳城の三の丸にあたり，これまで堀の石垣と思われる遺構等が検出されている。調査は10m四方のグリッドを設定し，南北にＡ～Ｈ，東西に1～9の番号を付して実施した。

基本土層は6層に大別できる。このうち第2層と第4層がそれぞれ近世と中世の遺物包含層である。今回は第4層は部分的にしか残存しておらず，近世の開削が深部にまで及んでいることを窺わせる。

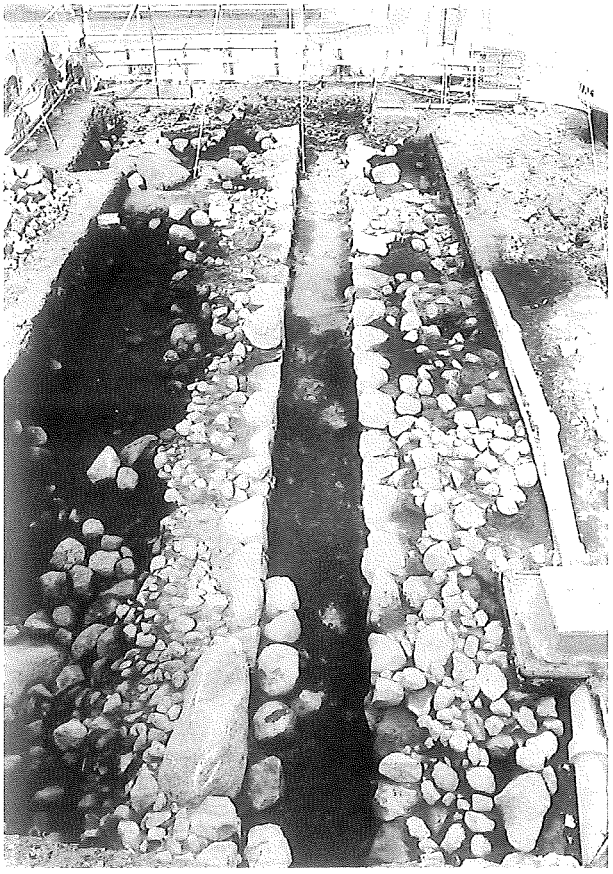
遺構は調査区を東西に走る2条の石積み溝(ＳＶ)と柱穴列(ＳＡ)，土坑(ＳＫ)，溝(ＳＤ)を検出した。

ＳＶ０１は幅5.2mを測り，2～3段の石積みを残していた。石は打ち込みハギで大きさを揃えた石材の小口部分を内側に向け，石の控えを長くとり，布目積みを行っていた。

ＳＶ０２もこれと平行するように東西に走り，幅は1mを測る。石積みは概ね2段目まで遺存し，



森岳城跡位置図［島原］(S=1/25,000)


石積み溝（SV02）検出状況（写真）

基本的に長手部分を内側に向けて並べられ，控えはほとんどない。裏込めの栗石は入念に詰められ，ＳＶ０１よりつくりはしっかりしている。石の加工度等を勘案すると，ＳＶ０２のほうが時期的に先行するものと思われる。

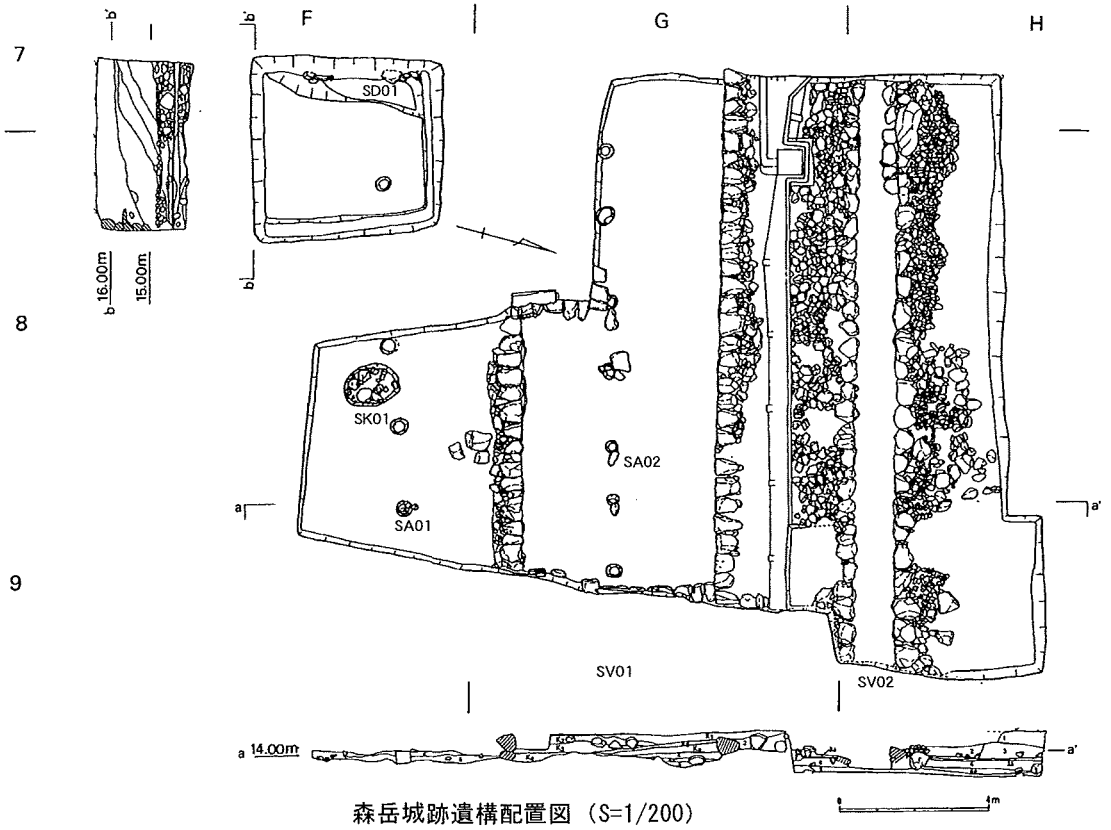
ＳＡ０１は柱穴4個が残存していた。それぞれの間隔は約2.3mを測る。東端の柱穴では丸瓦が立った状態で出土し，柱に沿うように差し込まれたとも考えられる。ＳＡ０２は7個の柱穴からなる。それぞれの間隔は1.5～2.5mと一定しない。柱穴内から遺物の出土はなかった。ＳＡ０１とＳＡ０２は柱穴列の方向も微妙に異なり，同時期の遺構とは考えにくい。また，これらはＳＶ０１やＳＶ０２とも方向が一致せず，時期差と考えると，少なくとも2～3時期の遺構変遷が推測されよう。

ＳＫ０１は平面プランが楕円形をなし，長径1.5m，短径1.2mを測る。底面は不整形で，深さ約30cm。内部からは礫石とともに大量の瓦片が出土し，廃棄土坑と考えられる。ＳＤ０１は調査の都合で遺構の全体形状を知り得なかった。深さ60～70cmを測り，内部は礫と瓦片が詰め込まれていた。

遺物の大半を占めるのは瓦類である。軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・桟敷瓦が主で，鬼瓦も1点みられた。瓦以外では土器・陶磁器類があるものの，数量は極端に少ない。ほとんどが攪乱層からの出土で，遺構の時期決定につながる資料は得られなかった。時期的には中世～近世初期の輸入陶磁器類と，17世紀後半以降の国産陶磁器類があった。

まとめ

ＳＶ０１やＳＶ０２については，昨年度の調査で確認された堀石垣とほぼ直行するような位置関係にあり，これらの遺構とのつながりが想定される。文献では松平忠房入封時の寛文13（1673）年に堀を築いたとあり，天保年間の絵図にも描かれていることから，江戸終末期まで堀は存続していたと思われる。出土遺物からも17世紀後半以降は首肯できる妥当な年代観といえるであろう。また，ＳＡ０１・ＳＡ０２がＳＶ０１・ＳＶ０２に先行するかどうかについては再度検討して判断したい。



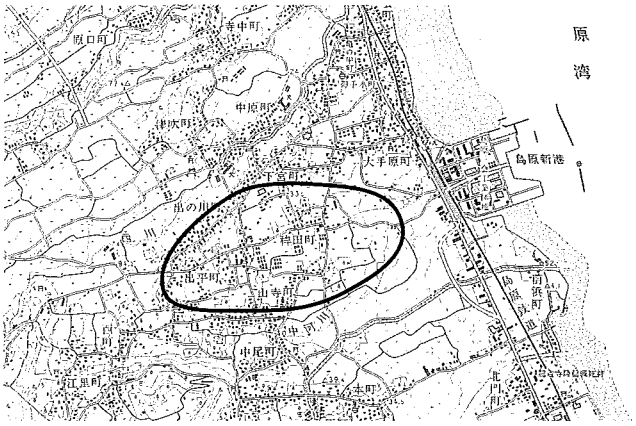
森岳城跡遺構配置図（S=1/200）

⑯稗田原遺跡

所 在 地	島原市稗田町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県道拡幅	**調査面積**	650㎡
調査期間	平成12年5月8日～6月3日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成13年3月刊行	**処　　置**	調査後工事

立地および環境

稗田原遺跡の位置する丘陵は，礫石原付近から広がる扇状地扇端部に位置する。周辺には中野・中原・三ノ沢などの丘陵があり，それぞれ縄文時代から古代にかけての遺跡が立地する。なかでも畑中遺跡は御領式～黒川式並行期を中心とし，稗田原遺跡との関係が注目される。



稗田原遺跡位置図［島原］（S＝1/50,000）

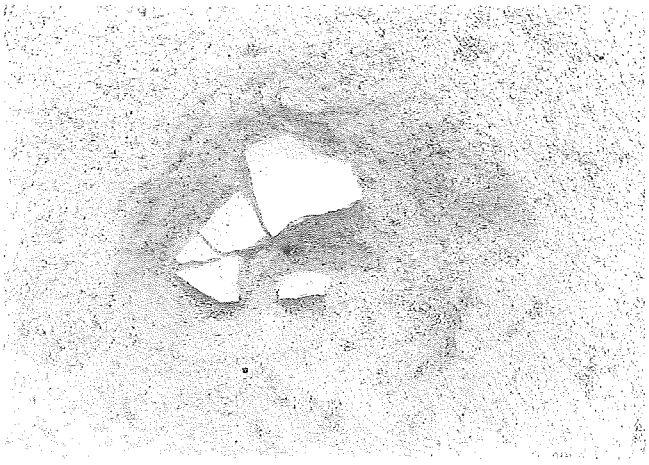
調　査

広域農道（グリーンロード）と国道251号線を結ぶ一般県道礫石原－松尾停車場線道路改良工事に伴うものである。改良工事は道路拡幅を目的とし，拡幅部分を中心に調査を行い，1～15の調査区を設けて層位ごとに調査を行った。基本土層は，古代遺物包含層2，縄文晩期遺物包含層1であり，無遺物層として六ツ木火砕流相当（およそ4000年前）の青灰色砂層などが確認された。古代の溝1条・火砕流路1，縄文晩期の溝1条・Ｐｉｔ2基などの遺構を検出した。古代の遺物は須恵器・土師器などが見られたが，火砕流などの自然作用によって，表面の摩滅が激しい。二次堆積の包含層である可能性が高い。縄文時代包含層内部では黒川式を中心とした縄文晩期土器のみが確認され，良好な包含層であることが確認できる。

まとめ

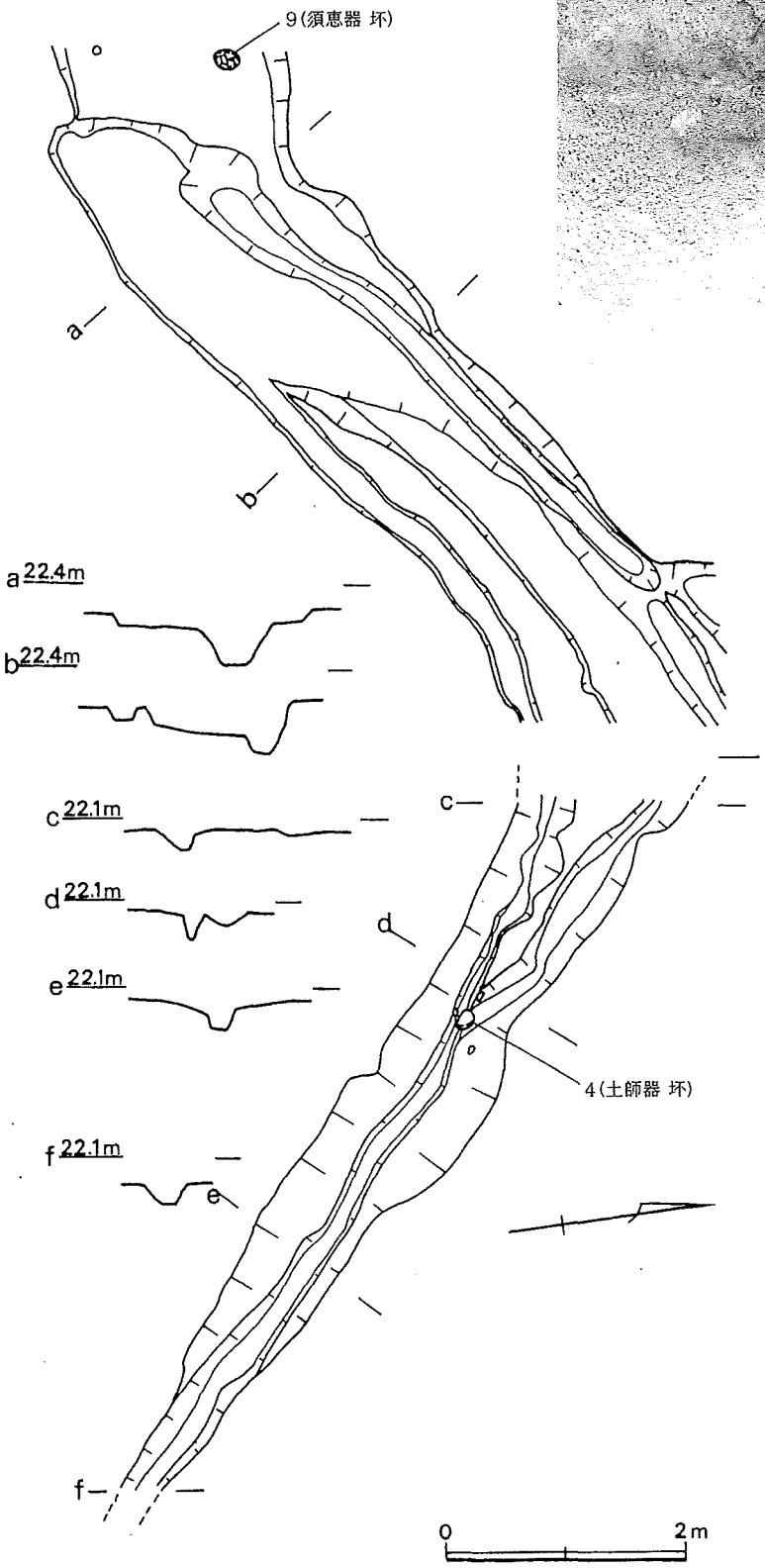
古代遺物包含層中には複数の混礫砂層が入り込み，奈良・平安時代に複数の火砕流が雲仙岳より発生したものと思われる。火砕流路底面で須恵器坏が完形で出土し（右頁図・写真），周辺には火砕流でパックされた古代の住居跡が存在する可能性が高い。縄文時代の包含層からは黒川式を中心とした土器群が見られる。畑中遺跡の後段階で，礫石原遺跡の前段階に位置づけられる。

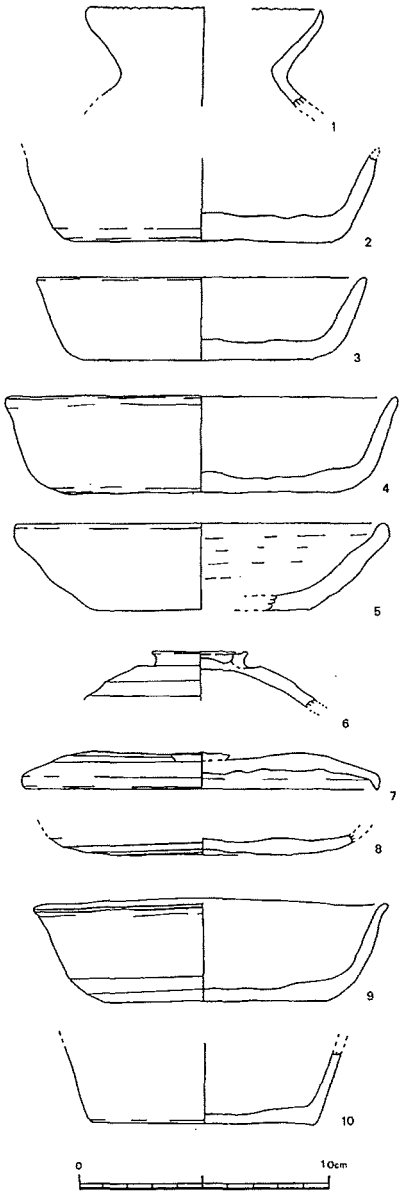
［調査担当：福田・竹中］（文責：竹中）



縄文晩期土器出土状況

須恵器坏出土状況





火砕流により埋没した溝状遺構

⑰礫石原遺跡（くれいしばる）

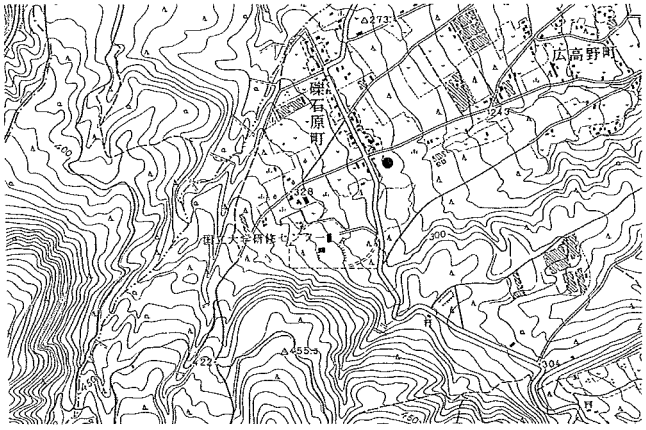
所 在 地	島原市礫石原町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	150㎡
調査期間	平成12年11月13日～12月8日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	平成13年度刊行予定	**処　　置**	現状保存

立　地

礫石原遺跡は有明町と島原市の両町にまたがる面積150万㎡の広大な遺跡である。雲仙岳の火山性山麓扇状地に立地し，標高は200mを測る。

調　査

田浦氏宅の畑に4箇所の試掘坑を設定した。各試掘坑は5m×5mとした。ここでは今回の調査を代表するような結果をえた第2試掘坑について記載する。



礫石原遺跡位置図［島原］（S＝1/25,000）

土層は基本土層をなす。礫石原3層（アカホヤの２次堆積）上面で遺構の検出をおこなった。遺構は溝状遺構とピット，土坑などである。溝は南北方向に縞状に直線的に数条並んで検出された。幅は5cm～30cmとさまざまである。埋土は第2層（黒ボク）起源の土壌である。開拓後の耕作によるものと判断した。

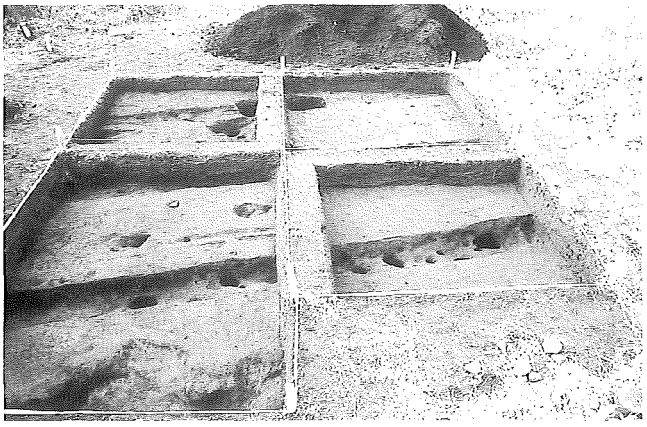
礫石原3層除去後，4層（カシノミ層）上面で溝状遺構を検出した（ＳＤ1)。埋土は3層起源のものである。したがって時期は縄文前期以後で晩期以前である。人為的な溝というよりは，沢状の自然地形と判断した。同様の時期のものでピット6基（Ｐ1～Ｐ6）を検出した。

3層と4層の境界付近の層より山形押型文土器片を出土した。

第2試掘坑の遺構としてはＰ1～Ｐ6，ＳＤ1がある。いずれも3層のある時点から4層に切り込んでいる。ピット（小穴）内の埋土は3層起源のものである。したがって縄文前期以降，晩期以前である。

まとめ

第2試掘坑の遺物としては，基本的には1・2層からと，3層上面までは縄文晩期の土器が出土する。3層下部からは押形文土器が出土し，4層上面（4ａ層）では縄文早期の貝殻条痕文土器が出土するようである。


礫石原遺跡第2試掘坑

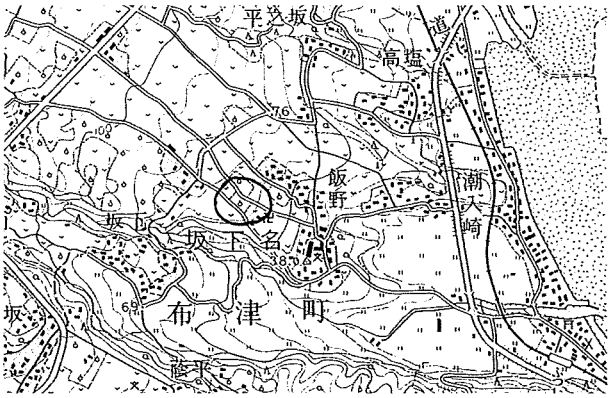
［調査担当：古門・佐藤］（文責：古門）

⑱飯野（いいの）遺跡

所 在 地	南高来郡布津町	**調査主体**	布津町教育委員会
調査原因	圃場整備	**調査面積**	32㎡
調査期間	平成12年10月23日～10月27日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後埋め戻し

調査概要

飯野遺跡は，西側に張り出した丘陵の末端部に位置し，標高70mを測る。丘陵は段丘となっており，南北に急激に落ち込む。南側には木場原遺跡が位置する広大な平地が広がる。以前この地区から縄文晩期の合口甕棺が出土しており山の寺式土器の好資料として知られていた。また，この他縄文早期，弥生土器等も表面採集されていた。このことから，良好な包含層があるものと予想されていた。

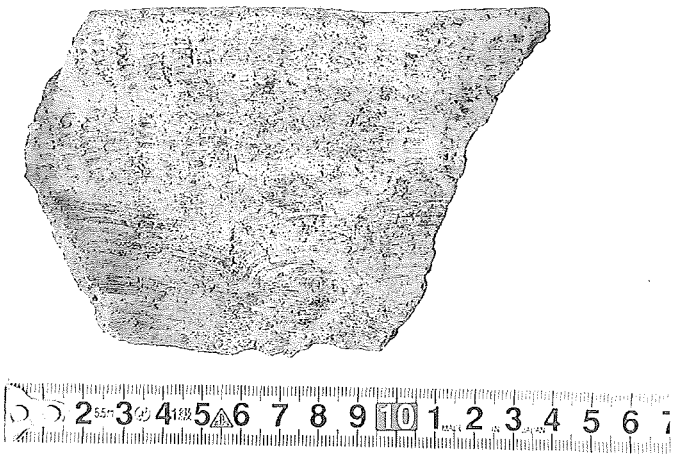


飯野遺跡位置図［島原］（S＝1/25,000）

調査は，2×2mの試掘坑を8箇所設定しておこなった。その結果，縄文早期を主体に遺物が出土し，良好な包含層に恵まれた。層位は火山灰層が厚く堆積しており，基本的に国見町百花台遺跡と同様な層で構成されている。遺物は2層の通常アカホヤと呼ばれる火山灰層の上部に晩期土器，下層に早期土器が出土した。断面採集による合口甕棺のような大形の土器や，遺構については今回は確認できなかったものの，調査区を広範囲に設定することによって遺構の確認も今後期待できるものと考える。2層以下には百花台遺跡と同様の層が堆積していたが，旧石器時代の遺物は確認できなかった。出土した早期土器は，貝殻文系の土器で器壁は厚く，いわゆる円筒形の土器である。布津町では，縄文時代早期の遺跡として大崎鼻遺跡が知られるが，この遺跡でも貝殻文系の円筒土器が確認されており，一野式土器の範疇に入るものと考えられている。

標高70mの飯野遺跡と，標高14mの大崎鼻遺跡での出土土器が，その様相が同じであるということは興味深い。また同じ土層堆積環境下にあっても，百花台遺跡のように旧石器時代の遺物が出土しないことは，当時の環境と人の動きを知る上で考えるものがある。

［調査担当：福田・佐藤］（文責：福田）

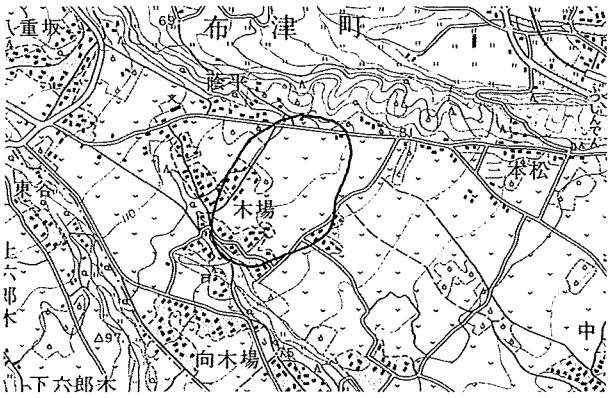

遺跡出土の貝殻文円筒形土器

⑲木場原（こばばる）遺跡

所 在 地	南高来郡布津町坂下名木場原	**調査主体**	布津町教育委員会
調査原因	県営畑地帯総合整備事業	**調査面積**	408㎡
調査期間	平成12年10月27日～11月29日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	未刊行	**処　　置**	調査後埋め戻し

立　地

当該地は島原半島の東南部に位置する。北は深江町・南は有家町・西は小浜町に接しており，町全体が雲仙岳を中心とした火山性麓扇状地に立地する。



木場原遺跡位置図［島原］（S＝1/25,000）

調　査

今回，布津東部地区の畑地帯総合整備事業に伴い範囲確認調査の必要性が生じた。基本的には遺跡範囲内の調査であるが，施工範囲が広いため遺跡周辺の試掘調査も併せて行った。調査は2m×2mの試掘坑を50m間隔（一部は100m間隔）で102ヶ所設定して調査を行った。

まとめ

調査の結果，上木場地区に位置する遺跡範囲の西側から甕棺が3基確認された。この周辺では，昭和22（1947）年地元住民によって甕棺が確認されている。（布津小学校蔵）また，昭和46年（1971）に県立国見高等学校社研部による調査でも甕棺が確認されている。（県立国見高等学校蔵）遺跡範囲一帯の土層堆積状況は良好で，そのほとんどが弥生時代の遺物で占められている。

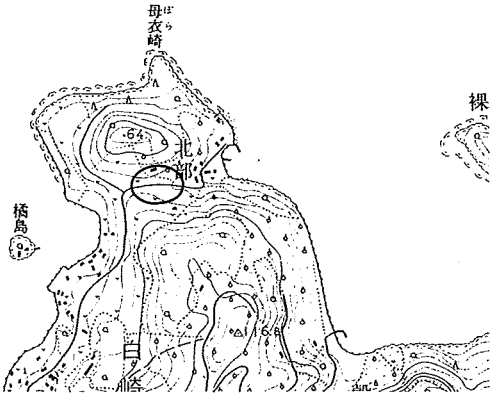
下木場地区一帯での遺構は検出できなかったが，鍛冶関連に伴う遺物（鉄屑など）が多量に確認された。また，聞き取り調査では，この一帯は刀鍛冶が明治まで操業していたという。付近に存在する石塔との関連も無視できない。（文責：東）

⑳白崎（しろさき）遺跡

所 在 地	西彼杵郡西彼町白崎郷	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	個人住宅建設	**調査面積**	12㎡
調査期間	平成13年2月13日～2月15日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

遺跡は，国道206号線から分岐した町道「上岳・母衣崎線」を約3.8kmほど入った畑地で，大村湾に臨むなだらかな丘陵に位置する。主に縄文時代の遺物包含地として周知されている。



白崎遺跡位置図［川棚］（S=1/25,000）

調　査

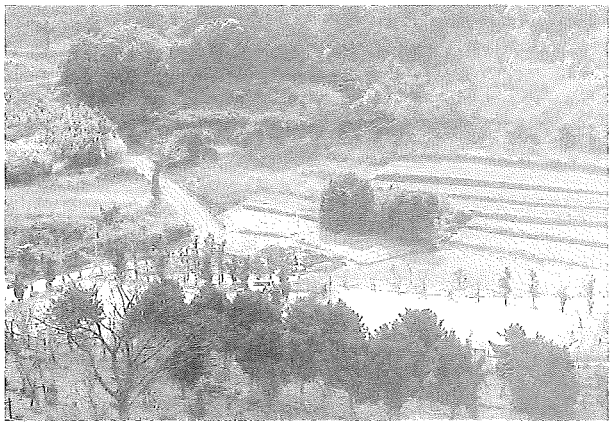
これまでの調査経緯として，平成3年に町企画課の事業に伴い，県文化課が試掘調査を行っている。前回の調査では今回の調査区より2～3m高い箇所から黒曜石薄片や原石が出土している。今回の範囲確認調査は，遺跡の範囲内に個人住宅建設が予定されており，農地を宅地造成する前に遺物包含層の有無を確認するため緊急に実施した。

宅地造成区内に2m×2mの試掘抗3ヶ所を設定し，計12㎡を調査した。土層は，表土が耕作土にあたり，第2層は灰黄色粘質土層で拳大の礫が混ざり，第3層は明赤褐色粘質土層，岩盤と続く。各層ともに遺物は全く出土しなかった。第2試掘抗の南西側に直経20cm程のピットを1つ検出し周辺を掘り下げてみたが，遺構としての拡がりは認められなかった。

まとめ

岩盤に達するまで約1m程掘り下げたが，遺物は出土せず，遺物包含層も残存していなかった。以前試掘調査を行った際は，縄文・旧石器の遺物が確認されているが，今回はそれらの地点より標高が下がった所にあたる。以前に遺物が包含されていたとしても畑地の整備のため掘削されている可能性も高い。よって宅地造成するにあたって当該工事区域においては工事に支障はない。

［調査担当：松﨑］（文責：山口）

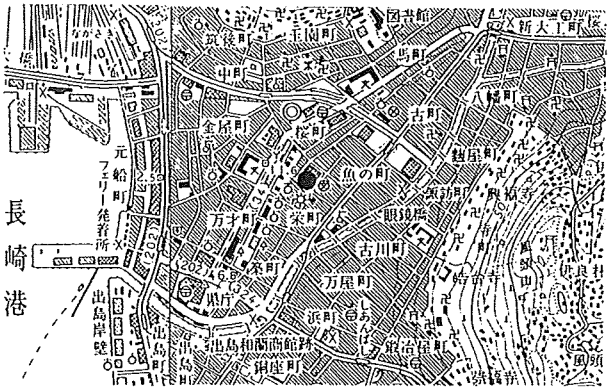

調査区遠景

㉑栄町遺跡

所 在 地	長崎市栄町2－33	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国道関連	**調査面積**	700㎡
調査期間	平成12年5月15日～平成12年7月15日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成12年度刊行	**処　　置**	調査終了後工事

調査経緯

調査地は，慶長二年（1597）に町建てされた最も古い長崎の外町のひとつ袋町の一部に相当する。当初は大村領で，長崎氏が管轄したが慶長十年(1605）以降は長崎代官，元禄十二年（1699）の内町・外町の廃止以降は，長崎奉行が管轄した。調査前は旧市立長崎高校の敷地であったが，国道関連の代替用地としての利用を受けて調査を実施した。



栄町遺跡位置図［長崎東南部］（S＝1/25,000）

調　査

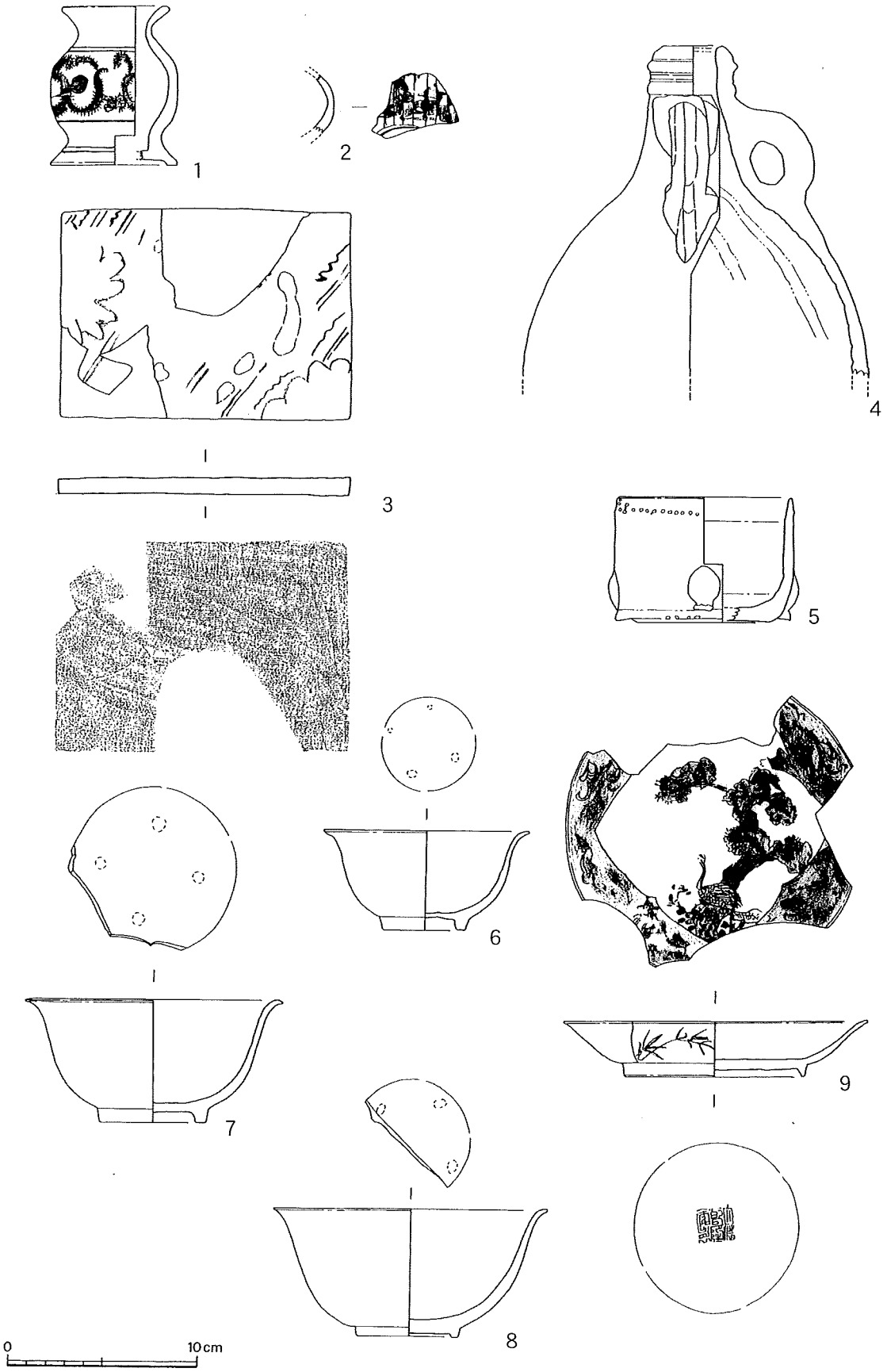
今回の調査でふたつの大きな調査成果があった。第一に町建て期の生活面が確認され，17世紀前半の豊富な遺物が出土したこと，第二に寛文三年(1663）の大火の焼土層から輸出向けの肥前陶磁がまとまって出土したことである。報告書が刊行されているが，資料の追加と既報告の訂正を行いたい。

a．追加資料　1は陶胎染付の小壺で２区Ⅴ層から出土した。素地は灰色で黒色粒を多く含む。呉須は暗青灰色に発色しており特異な唐草文が描かれる。器形などから西洋陶器の影響が窺える。輸出向けであろうか。２は肥前産のケンディで９区Ⅳ層から出土した。胎土精良で呉須の発色もよい。胴部に鎬が施されている。３は肥前産の赤絵の板状製品で９区Ⅴ層から出土した。胎土は黄灰褐色でザクザクとしており，乳白色釉の上に赤，白，茶で花文などを描く。貫入が多く火を受けて変色している。裏面に接着痕がありタイルと考えたが，表面に釉のハガレがあることから人形などの台である可能性もある[1]。４はライン炻器の瓶で16区Ⅳ層から出土した。胎土は黄白灰色でザラザラとしており，器表には褐色の塩釉がかかる。内側は頸部から下が無釉である。18世紀のフレッヒョン産のものである[2]。５は柿釉の火入れで５区Ⅴ層から出土した。口縁部と腰部に列点を施す。中国産である可能性が高い。６～８は中国の徳化窯の白磁碗で，いずれも４区Ⅲ層から出土した。見込みに目跡があり底部が無釉である。17世紀前半代のものである[3]。９は清朝磁器の色絵で内面に鶴と松を描き，周囲は赤の上に金彩で唐草を描く。高台内に「大清乾隆年製」とかく。

（1）・（3）大橋康二氏の御教示による。　（2）櫻庭美咲氏の御教示による。

b．訂正　報告書記載の遺物258は，18世紀代のものであり（大橋氏御教示），調査時の取り上げミスである可能性が高い。128と129～132は同一個体と考えたが前者はⅥ層，後者はⅤ層出土であり，器形的にも前者は胴丸の水注と考えられ，別個体と考えられる（櫻庭氏御教示）。

［調査担当：川口・高原］（文責：川口）



栄町遺跡出土遺物(S=1/3)

㉒合戦場（かっせんば）遺跡

所 在 地	長崎市上小島4丁目	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	長崎都市計画道路小ヶ倉蛍茶屋線改良工事	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成12年5月8日～5月11日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

合戦場遺跡は長崎市上小島の住宅地，標高180mほどの丘陵地尾根状の地に位置している。16世紀後半南蛮貿易港として注目されはじめた長崎の利権をめぐり長崎氏と深堀氏が争ったという言い伝えがこの地の地名の由来とされている。

合戦場遺跡位置図［長崎東南部］（S=1/25,000）

調　査

遺跡は，昭和57年県文化課の調査において，主に縄文時代の遺物包含地として周知されてきた。今回の調査は小ヶ倉・蛍茶屋間を結ぶ都市計画道路建設に伴い，丘陵地の尾根を一部開削して行う改良工事に先立って行ったものである。道路の拡幅が予定される場所を中心に範囲確認調査を実施した。

調査は，道路拡幅部分のうち，原地形が残っていると思われる丘陵部分の5ヶ所に2m×2mの試掘抗を設け，計20㎡（ＴＰ1～5）を調査した。ＴＰ1・2・4は旧宅地，ＴＰ3・5は荒地である。

旧宅地部分は表土下凝灰角礫岩風化層（岩盤）に攪乱を受け，建築資材が廃棄されており，荒地部分は表土下に層が認められるが，更に下の岩盤との層位区分は明らかではなく，いずれの試掘抗からも遺物は確認できなかった。なお，ＴＰ5ではピットを1基確認したが，構造物としての拡がりは見えず人為的なものではないと思われる。

まとめ

調査の結果，ＴＰ1・2・4は宅地造成のため既に削平を受けており，建物の基礎工事のためさらに内部の岩盤にも攪乱を受けた様子が見て取れる。ＴＰ3・5は表土下に層が認められるものの，遺物包含層と生活面は確認できなかった。道路拡幅部分について工事に支障はない。

［調査担当：山口・高原］（文責：山口）

ＴＰ３西壁検出状況

Ⅲ 平成12年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
1	玖島城跡	大村市								○	d						○		○
2	日向平遺跡	大村市		○							d							○	
3	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d							○	
4	蔦木遺跡	大村市			○						d							○	
5	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d							○	
6	矢櫃遺跡	島原市		○					○			A		○					
7	天水遺跡	石田町							○	○		A		○					○
8	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
9	八瀬平石塚古墳	上県町							○			A				○			
10	志多留積石塚古墳	上県町							○			F				○			
11	深堀遺跡	長崎市		○	○					○		A		○					
12	五島町遺跡	長崎市								○	d	A	○				○		
13	原城跡	南有馬町																	○
14	富の原遺跡	大村市			○						d	A	○					○	○
15	稗田原遺跡	島原市		○	○				○			A		○					
16	森岳城跡	島原市								○		A		○					
17	田口高野遺跡	松浦市		○								D		○					○
18	下谷遺跡	松浦市		○						○		A		○					
19	富の原遺跡	大村市			○						d							○	
20	富の原遺跡	大村市			○							A	○						
21	菅牟田遺跡	平戸市	○									A							○
22	根獅子遺跡	平戸市			○							A							○
23	百田頭６号墳	芦辺町				○												○	
24	妙泉寺１号墳	芦辺町				○												○	
25	金屋町遺跡	長崎市								○	d	A				○		○	
26	深堀遺跡	長崎市		○	○	○			○	○		C		○					
27	原の辻遺跡	石田町			○				○			D		○					
28	原の辻遺跡	芦辺町			○				○			D		○					
29	万才町遺跡	長崎市								○		C	○						
30	下の原Ａ遺跡	佐世保市	○	○												○			
31	下の原Ｂ遺跡	佐世保市	○	○												○			
32	桑木場遺跡	佐世保市		○												○			
33	牛石Ａ遺跡	佐世保市	○	○												○			
34	牛石Ｂ遺跡	佐世保市		○												○			
35	釜蓋遺跡	佐世保市	○	○												○			
36	口の尾Ａ遺跡	佐世保市	○	○												○			
37	神の前遺跡	佐世保市	○													○			
38	横手立岩原遺跡	佐世保市	○	○												○			
39	上本山遺跡	佐世保市	○	○												○			
40	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	○
41	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	○
42	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
43	火除遺跡	平戸市	○															○	
44	上大垣遺跡	平戸市	○	○	○							C	○						
45	入口遺跡	平戸市	○								d	B	○					○	○
46	東鷹野遺跡	有明町		○							d							○	
47	富の原遺跡	大村市			○						d						○		○
48	西浜遺跡	平戸市		○								D		○					
49	金屋町遺跡	長崎市								○	d	A	○				○		
50	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
51	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		a						○		
52	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
53	三根遺跡山辺区	峰町			○	○					d							○	
54	栄町遺跡	長崎市								○		A		○					
55	榎津遺跡	小値賀町		○		○			○			A		○					
56	里田原遺跡	田平町		○	○				○			D	○						
57	石田城跡	福江市								○		C		○					
58	立石遺跡	吉井町		○								A		○				○	○
59	岩名遺跡	大村市		○	○	○	○		○			D	○						
60	岩名遺跡	大村市		○	○	○	○		○			C	○						
61	寺中Ａ遺跡	島原市			○							A	○						
62	柿泊遺跡	長崎市	○	○								D	○						
63	堤第二遺跡	平戸市		○								C	○						

No	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
64	栄町遺跡	長崎市		○						○	d							○	
65	合戦場遺跡	長崎市		○							d							○	
66	亀岡遺跡	平戸市		○								A		○					
67	東鷹野遺跡	有明町		○							d							○	
68	入口遺跡	平戸市	○	○								C	○						
69	深堀遺跡	長崎市		○	○					○		A		○					
70	沖田・黒丸条里遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○			A	○						
71	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
72	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○				○		d		○					○	○
73	榎津遺跡	小値賀町		○	○	○			○		d							○	○
74	下谷遺跡	松浦市		○						○	d							○	○
75	浦小川遺跡	平戸市			○							A		○					
76	里田原遺跡	田平町			○				○			A	○						
77	里田原遺跡	田平町		○	○				○			A	○						
78	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	
79	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	
80	家ノ隈遺跡	豊玉町							○			A		○					○
81	野岳湖遺跡	大村市	○									C		○					
82	野岳湖遺跡	大村市									d	A		○			○		
83	玖島城跡	大村市								○		C		○					
84	十園遺跡	国見町			○	○					d			○				○	
85	入口遺跡	平戸市	○								d	A	○					○	○
86	礫石原遺跡	島原市		○								A	○						
87	河原城跡	川棚町								○		C	○						
88	溜水遺跡	南串山町		○								D		○					
89	竹松遺跡	大村市		○	○	○						D	○						
90	蒲河遺跡	有家町										C		○					
91	殿平城跡	佐世保市										D		○					
92	富の原遺跡	大村市			○						d							○	○
93	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	A	○					○	
94	諫早農業高校遺跡	諫早市			○	○						A		○					
95	中島遺跡	福江市		○							a						○		○
96	多比良馬場遺跡	国見町			○									○					
97	トラベ川遺跡	平戸市	○	○								C	○						
98	玖島城跡	大村市								○	d	A		○			○		○
99	今福遺跡	北有馬町			○							C		○					
100	三川内東窯跡	佐世保市								○	a						○		○
101	鶴田遺跡	石田町			○							D		○					
102	原の辻遺跡	石田町			○							D		○					
103	玖島城跡	大村市								○		C		○					
104	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
105	鷹島海底遺跡	鷹島町							○			A		○				○	
106	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						A		○					
107	南上木場遺跡	島原市		○	○							D		○					
108	権現脇遺跡	島原市		○								D		○					
109	松浦党梶谷遺跡	松浦市							○	○		D		○					
110	立石遺跡	有川町		○								D		○					
111	浜遺跡	有川町			○							A		○					○
112	権現脇遺跡	深江町		○								D		○					
113	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○						
114	里田原遺跡	田平町			○				○			A	○						
115	原の辻遺跡	石田町	○		○		○	○	○			D	○						
116	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A	○						○
117	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
118	大浜遺跡	福江市		○	○	○	○	○	○			C		○					
119	唐人屋敷跡	長崎市								○		A	○						
120	下大垣遺跡	平戸市		○								C	○						
121	雷命神社下遺跡	厳原町				○						A		○					
122	原の辻遺跡	石田町			○	○					d							○	
123	原の辻遺跡	石田町			○	○					d							○	
124	入口遺跡	平戸市	○	○								A	○						
125	原の辻遺跡	芦辺町			○				○			D		○					
126	闇繰遺跡	芦辺町			○							D		○					

No	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
127	原の辻遺跡	石田町			○				○		d	A		○				○	○
128	上原遺跡	有川町		○	○														○
129	柳・馬込遺跡	小値賀町	○	○		○			○		d							○	○
130	水崎遺跡	美津島町							○		a						○		○
131	金田城跡	美津島町			○														○
132	日野江城跡城下町遺跡	北有馬町							○		d	A				○			
133	日野江城跡城下町遺跡	北有馬町							○	○	d	A		○				○	
134	桑田遺跡	瑞穂町										A		○					
135	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
136	五教館御成門	大村市								○		A		○					○
137	富の原遺跡	大村市			○						d	A	○						
138	長崎西役所跡	長崎市								○	d	C		○					
139	上原遺跡	有川町		○	○							D		○					
140	幸ノ浦第２遺跡	平戸市		○								C		○					
141	智惠治窯跡	波佐見町								○	a							○	○
142	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A		○					
143	玖島城跡	大村市								○		C	○						
144	原の辻遺跡	石田町	○		○						a							○	
145	蓮蔵寺遺跡	大村市		○					○			D	○						
146	小田貝塚遺跡	大瀬戸町							○			C		○					
147	上諏訪山田遺跡	大村市			○				○	○	d	A	○						○
148	三城城跡	大村市							○			D	○						
149	重篭遺跡	長崎市	○	○							a						○		
150	東光寺跡	大村市							○			D		○					
151	北久保Ａ遺跡	松浦市		○	○							D	○						
152	小船遺跡	松浦市		○								D	○						
153	深田代池遺跡	松浦市		○								D	○						
154	長尾池遺跡	松浦市		○								D	○						
155	牟田Ａ遺跡	松浦市	○	○								D	○						
156	佐世保崎遺跡	松浦市										D	○						
157	津崎鼻遺跡	松浦市	○	○								D	○						
158	葛籠池遺跡	松浦市		○								D	○						
159	牟田池遺跡	松浦市	○	○								D	○						
160	姫神社遺跡	松浦市		○								D	○						
161	北久保Ｃ遺跡	松浦市		○								D	○						
162	牟田Ａ遺跡	松浦市	○	○								D	○						
163	里田原遺跡	田平町		○	○	○	○					C		○					
164	中田遺跡	有明町		○								C		○					
165	田井原条里遺跡	諫早市							○										
166	永昌遺跡	諫早市		○								D	○						
167	伝代官所跡	佐世保市								○						○			○
168	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○						d	D	○						
169	竹松遺跡	大村市			○						d	A	○						
170	大丸古墳	千々石町				○						C		○					
171	風観岳支石墓群	諫早市		○														○	
172	栢ノ木遺跡	松浦市			○						d	A	○					○	○
173	飯野遺跡	布津町			○														○
174	木場原遺跡	布津町			○														○
175	風突谷遺跡	諫早市		○							d								
176	山畠坂遺跡	諫早市		○							d								
177	福田城遺跡	長崎市							○			D	○						
178	景華園遺跡	島原市			○							A	○						
179	六ノ坪条里遺跡	国見町					○					D		○					
180	小中野Ｂ遺跡	国見町			○	○	○	○			d							○	
181	入口遺跡	平戸市	○								d	A	○						
182	里田原遺跡	田平町							○		d							○	○
183	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	○
184	里田原遺跡	田平町							○		d							○	○
185	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	○
186	里田原遺跡	田平町			○				○		d							○	○
187	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	○
188	嶽ノ下Ａ遺跡	大村市		○	○						d	A	○						
189	田井原条里遺跡	諫早市					○	○			d								

No	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	58条の2	
190	勝山遺跡	長崎市								○	d							○	
191	矢房遺跡	国見町		○		○	○	○			d							○	○
192	立石遺跡	平戸市	○								d	A		○					
193	里田原遺跡	田平町										A	○						
194	戸田遺跡	郷ノ浦町			○						a							○	○
195	朝日遺跡	石田町			○				○			C		○					
196	天神洞穴	佐世保市										A		○				○	○
197	白崎遺跡	西彼町	○								d	A	○						
198	三井木場池遺跡	東彼杵町	○	○								A		○					
199	興原遺跡	石田町	○		○				○			D		○					
200	井手遺跡	諫早市							○							○			
201	壱岐ノ戸遺跡	郷ノ浦町			○	○						A		○					
202	蒲浦遺跡	宇久町		○								C		○					
203	対馬藩主宗家墓所	厳原町																	○
204	下大垣遺跡	平戸市		○								C	○						
205	一野遺跡	有明町		○	○	○					d							○	○
206	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d							○	○
207	勝尾嶽城跡	平戸市										C	○						
208	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A	○						
209	日の岳城跡	平戸市								○		C	○						
210	蓮蔵寺遺跡	大村市										C		○					
211	大崎鼻遺跡	布津町		○							d							○	○
212	玖島城跡	大村市								○									
213	鬼岩Ａ遺跡	長崎市		○								C		○					
214	里田原遺跡	田平町		○	○							A						○	○
215	津吉遺跡	平戸市		○								D		○					
216	油チウ原遺跡	平戸市		○								C	○						
217	三川内西窯跡	佐世保市																	○
218	川内紅毛関連遺跡	平戸市								○		C	○						
219	深堀遺跡	長崎市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
220	焼山城跡	長崎市							○										
221	桑田遺跡	瑞穂町		○							d								
222	阿連瀬戸原遺跡	厳原町			○														○
223	セトバル古墳	厳原町				○													○
224	原の辻遺跡	石田町			○							C	○						
225	里田原遺跡	田平町			○													○	
226	雷命神社下遺跡	厳原町				○						B							○
227	セトバル古墳参考地	厳原町				○						B							
228	鷹島海底遺跡	鷹島町																○	○

・ 一覧表の通し番号は，文書の届け出順を基準とする。
・ 時代については，旧石器時代→旧， 縄文時代→縄， 弥生時代→弥， 古墳時代→古， 奈良時代→奈，平安時代→平， 鎌倉・室町・戦国時代〔中世〕→中， 江戸時代〔近世〕→近 としている。
・ 原因については ａ→学術調査， ｂ→遺跡整備， ｃ→自然崩壊， ｄ→開発事業 に伴う調査を示す。
・ 結果については，Ａ→発掘調査， Ｂ→範囲確認調査， Ｃ→工事立会， Ｄ→慎重工事， Ｅ→発見届，Ｆ→現状保存， Ｇ→厳重注意 としている。

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 9
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 164 集
編著者名	荒井春房
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町 2 - 13　TEL 095-824-1111
発行年月日	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
浜遺跡（はまいせき） など 22 遺跡	長崎県（ながさきけん） 南松浦郡（みなみまつうらぐん） 有川町（ありかわちょう）など							

長崎県文化財調査報告書　第164集

長崎県埋蔵文化財調査年報9

（平成12年度調査分）

平成14年3月31日

発　行　長崎県教育委員会

長崎市江戸町2－13

印　刷　㈱クイックプリント